

(様式第 10)

近大総発第 122 号
平成 27 年 11 月 9 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 近畿大学
理事長 清水 由洋 (印)

近畿大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3 丁目 4 番 1 号
氏 名	学校法人 近畿大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

近畿大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 3 7 7 番地の 2 電話(072) 366-0221
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ (無)
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 糖尿病・内分泌内科 3 消化器内科 4 血液内科 5 神経内科 6 腫瘍内科 7 呼吸器内科 8 腎臓内科 9 心療内科 10 緩和ケア内科 11 漢方内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 小児外科 3 脳神経外科 4 心臓血管外科 5 整形外科 6 形成外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 矯正歯科 2 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。
- (注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	930床	930床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 27 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	457人	102人	475人	看護補助者 (診療補助員)	109人	診療エックス線 技師	0人
歯 科 医 師	10人	6人	10.4人	理学療法士	16人	臨床検査技 師	94人
薬 剤 師	61人	5人	63人	作業療法士	4人	衛生検査技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	10人	そ の 他	0人
助 産 師	24人	0人	24人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	915人	20人	929.4人	臨床工学士	25人	医療社会事業従 事者(ソーシャルワーカー)	5人
准 看 護 師	1人	0人	1人	栄 養 士	0人	その他の技術員	17人
歯科衛生士	4人	3人	6.4人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	408人
管理栄養士	14人	1人	15人	診療放射線技師	54人	そ の 他 の 職 員	50人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25人	眼 科 専 門 医	33人
外 科 専 門 医	51人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	24人
小児科専門医	18人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	9人
産婦人科専門医	10人	救急科専門医	15人
		合 計	237人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	706.1人	2.7人	708.8人
1日当たり平均外来患者数	1539.0人	96.2人	1635.2人
1日当たり平均調剤数	4138.9剤		
必要医師数	165人		
必要歯科医師数	5人		
必要薬剤師数	51人		
必要(准)看護師数	408人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要					
集中治療室	204.20 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	病床数	10床	心電計	(有)・無		
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無		
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無		
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 17.29 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	1	床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 32.03 m ² [共用室の場合] 共用する室名							
化学検査室	622.88m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 生化学自動分析装置日立7700型、 生化学自動分析装置日立LABOSPECT008型					
細菌検査室	134.12m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 血液培養装置バクテアラート3D、 COBAS Taqman48、嫌気ワークステーション					
病理検査室	155.87m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 免疫染色装置ベンタナNX、 遺伝子増幅検出装置RD-100i					
病理解剖室	101.56m ²	鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 解剖実験台					
研究室	4104.7m ²	鉄骨造+鉄骨鉄筋コンクリート造	(主な設備) 超音波画像診断装置、透過電子顕微鏡、 高速液体クロマトグラフ質量分析計、 共焦点レーザー走査型顕微鏡					
講義室	2042.22 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	10	室	収容定員	1,869	人
図書室	1557.83 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	5	室	蔵書数	164,000	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	81.9%	逆紹介率	64.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数	21,753 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	17,965 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,146 人	
	D: 初診の患者の数	27,944 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。(対象期限:平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	3人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法 ホルモン不応性再燃前立腺がん(ドセタキセルの投与が困難な者であって、HLA-A24が陽性であるものに係るものに限る。)	1人
パクリタキセル腹腔内反復投与療法 胃切除後の進行性胃がん(腹膜に転移しているもの、腹腔洗浄細胞診が陽性であるもの又はステージⅡ若しくはⅢであって肉眼型分類が3型(長径が八センチメートル以上のものに限る。)若しくは4型であるものに限る。)	0人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	3人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が認められないものに限る)	4人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	3人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。(対象期限:平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	OOKP	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 OOKPは歯根部利用人工角膜の略。この方法は、重症のスチーブンス・ジョンソン症候群などでの視力矯正の最後の手段とされている方法で、患者自身の犬歯の根部を人工角膜光学部の固定に利用する手術方法。			
医療技術名	顎顔面手術におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ナビゲーション支援によって、より正確で安全な手技となり、眼窩手術や顎変形手術の精度が高まっている。			
医療技術名	爪郭部ビデオ毛細血管顕微鏡検査(NVC)による肺高血圧症発症リスクの診断	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 NVCによる爪郭部毛細血管像から膠原病性肺高血圧症の診断、治療評価に利用している。			
医療技術名	気管支充填材(EWS)による気管支充填術(気管支塵孔閉鎖術)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 従来の治療方法で治癒できない難治性気胸や気道出血に対して、シリコン製の気管支充填材(EWS: Endoscopic Watanabe Spigot)を気管支鏡を用いて気管支内部から充填して治療する方法。			
医療技術名	PMX-DHP (polymyxin B-immobilized fiber column direct hemoperfusion)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 敗血症、急性呼吸促迫症候群(ARDS)、特発性肺線維症(IPF)の急性増悪などに対して、ポリミキシンB固定化線維カラムを用いた直接血液灌流法にてエンドトキシンを除去し、酸素化の障害を改善する治療方法。			
医療技術名	気管支サーモプラスチックシステム(Bronchial thermoplasty system)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 重症喘息の増悪を減少させる効果がある新規気管支鏡下の手技による治療方法である。高周波電流により気管支壁を加熱することで、肥厚した気道平滑筋を減少させて喘息発作を緩和させる効果がある。			
医療技術名	完全胸腔鏡下肺葉切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 比較的早期の肺癌に関して、モニター視のみで小切開より肺葉切除を行う。			
医療技術名	胸腔鏡補助下肺区域切除	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 比較的早期の肺癌に関して、胸腔鏡補助下に小切開より肺区域切除をうい、肺機能の温存を行いつつ根治性の高い手術を行う。			
医療技術名	大血管切除再建を伴う胸部腫瘍(縦隔腫瘍、肺癌等)の根治術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 上大静脈、腕頭静脈、左心房などの合併切除をともなう手術を心臓外科の協力のもと行っている。			
医療技術名	肺尖部胸壁浸潤がんの放射線化学療法後の完全切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 鎖骨下動静脈、交感神経幹、腕神経叢に近接し、かつ視野のとりにくい肺尖部の胸壁浸潤肺癌(Pancoast肺癌)に対して、放射線化学療法後に完全切除をおこなう。			
医療技術名	気管支形成、血管形成をともなう肺切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肺全摘を避けつつ高い根治性を追求するために行っている。			
医療技術名	完全切除EGFR変異陽性患者に対するゲフィチニブによる術後補助化学療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 医師主導治験として該当患者に行っている。			

医療技術名	ロボット支援下子宮頸がん・体がん根治術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci Si)を用いた子宮頸がんおよび体がん根治術である。従来の開腹術に比較して低侵襲であり、排尿機能障害などの術後合併症も少なくなるという利点がある。癌の根治性についても良好な結果が得られるものである。			
医療技術名	腹腔鏡下子宮頸がん・体がん根治術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 腹腔鏡を用いた子宮頸がんおよび体がん根治術である。従来の開腹術に比較して低侵襲であり、入院期間が短縮や術後早期の追加治療が可能であるという利点がある。			
医療技術名	頭頸部表在癌に対する経口的内視鏡切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 内視鏡の進歩により施行されるようになった頭頸部表在癌に対する低侵襲手術。			
医療技術名	人工内耳埋め込み術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 両側高度感音難聴に対し行われる人工聴覚器手術。			
医療技術名	残存聴力活用科型人工内耳埋め込み術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 低音部に残聴がある高音急墜型感音難聴に対し行われる人工聴覚器手術。			
医療技術名	Baha埋め込み術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 両側混合性難聴に対し行われる骨固定型骨導補聴器埋め込み術。			
医療技術名	血小板凝集能モニタリング	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 冠動脈ステント留置術後に抗血小板薬を服用している症例に対して、患者および家族に説明・同意の上でさまざまな血小板機能検査法を用い血小板凝集能抑制効果を評価し、抗血小板薬抵抗性を示すメカニズムや原因を明らかにすることで、将来的に個々の症例に対して至適な抗血小板療法の選択が可能となることを目指している。			
医療技術名	心臓サルコイドーシスにおけるPET診断	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要 FDG-PETを用いて心臓サルコイドーシスの炎症部位診断を行う。			
医療技術名	持続的血糖モニターを用いた冠動脈疾患の患者管理	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 冠動脈疾患合併糖尿病患者に、皮下にセンサーを留置し持続的に血糖値をモニターする。			
医療技術名	運動負荷心エコーを用いた虚血部位の診断	取扱患者数	242人
当該医療技術の概要 運動負荷に心エコーを組み合わせて、心筋虚血を診断する。心エコーを用いて運動負荷前後の左室壁運動を比較して、心筋虚血を壁運動の低下部位から診断する。			
医療技術名	OCT(Optical Coherence Tomography:光干渉断層法)による冠動脈病変の描出	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 OCTは血管内超音波検査(IVUS)と比べて解像度が約10-15 μ mとIVUSの約10倍の高い分解能を有し、IVUSの弱点である石灰化や血栓などの評価に優れている。冠動脈疾患発生のメカニズムの解明や薬剤溶出性ステント治療後の評価に役立つ事が期待されている。			
医療技術名	冠動脈石灰化病変に対するRotablator治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 微少のダイヤモンド粒子でコーティングされた先端チップ(Burr)とそのBurrを回転させる駆動シャフトから構成され、Burrを15~19万回転/分で高速回転することにより、アテローム性プラークを切削する Deviceである。			

医療技術名	心房細動アブレーション	取扱患者数	140人
当該医療技術の概要 心房細動を発症する原因となる不整脈源性を有する肺静脈の同定、カルトシステムによる3次元マッピングシステムとスマートタッチシステムによる安全なアブレーション、さらには多点同時マッピングシステムによる心房細動の機序解明などを行い、心房細動の根治治療を行っている。			
医療技術名	植え込み型除細動器ならびに心臓再同期療法	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 致死的不整脈のリスクを有する患者や薬物抵抗性の心不全と心室の非同期的収縮を有する患者に対する植え込み型の治療機器。			
医療技術名	小児難治性特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ステロイド・ガンマグロブリン大量療法に抵抗性を示す小児ITP患者に対して、リツキシマブ投与を行う。			
医療技術名	肺高血圧症における運動負荷心エコーの有用性	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 肺動脈性肺高血圧症の患者に運動負荷心エコーと運動負荷右心カテーテル検査を同時に行い、各種血行動態のパラメーターを比較することにより運動負荷心エコー検査の有用性を検証する。また、運動負荷時の血行動態がその後の予後にどのように影響するかもあわせて検討する。			
医療技術名	神経芽腫に対する同種造血幹細胞移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ステージIVの進行性神経芽腫に対して同種のアロ免疫による抗腫瘍効果を期待して、同種造血幹細胞移植を行う。			
医療技術名	難治性GVHDに対するミコフェノールモヘチル (MMF) 治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 副腎皮質ステロイドホルモンに抵抗性GVHDを呈する患者に対して、ミコフェノールモヘチルの投与を行う。			
医療技術名	ミコフェノールモヘチル (MMF) 薬物モニタリングによる小児ネフローゼ症候群の治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 ミコフェノールモヘチル血中濃度をモニタリングし、それをもとに投与量を調節して、小児ネフローゼ症候群の治療を行う。			
医療技術名	小児期および先天性心疾患に対する高周波カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 小児期および先天性心疾患における不整脈器質に対する高周波カテーテル心筋焼灼術を全身麻酔下で三次元マッピング装置を用いて行う。			
医療技術名	小児期植え込み型除細動器移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児期の先天性心疾患術後の致死性心室頻拍症に経皮的植え込み型除細動器の移植を行う。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 食道表在癌に対して術前にNBI診断で深達度診断を行っている。治療としては一括切除できる内視鏡的粘膜下層剥離術を施行しており、全周性の病変に対しても施行。術後狭窄予防のためステロイドの粘膜下層局注を行っている。			
医療技術名	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	206人
当該医療技術の概要 早期胃癌に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を施行しており、術前にEUSによる深達度診断、NBIによる範囲・診断をおこなっている。			
医療技術名	大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	98人
当該医療技術の概要 大腸腫瘍に対する内視鏡的治療の適応として色素内視鏡、NBI観察で質的診断、深達度診断を行っている。これらにより内視鏡的粘膜下層剥離術を行い高い一括完全治癒切除が得られている。			
医療技術名	食道粘膜下層剥離術 (ESD)	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 内視鏡用の電気メスと高周波発生装置を用いて、内視鏡下に食道癌を剥離切除する。			

医療技術名	胃粘膜下層剥離術(ESD)	取扱患者数	133人
当該医療技術の概要 内視鏡用の電気メスと高周波発生装置を用いて、内視鏡下に胃癌を剥離切除する。			
医療技術名	多発性肝のう胞に対するエタノリン硬化療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 従来多発肝のう胞の治療は手術、移植、アルコール注入、ミノマイシン注入療法しかなかったが、上記は最も効果的な方法。			
医療技術名	EUSガイド下腹腔神経叢ブロック術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 EUSガイド下に膵がんなどによる疼痛をおさえる手技。			
医療技術名	肝がんに対する肝動注化学療法と分子標的の併用治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 肝がんに対する肝動注化学療法と分子標的薬の良い点を組み合わせた治療法。			
医療技術名	がんペプチドワクチンによる食道癌術後補助免疫療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 食道癌特異的ペプチドワクチンを用いて術前治療後の病理学的リンパ節転移陽性根治切除進行食道癌に対し、HLA-A24:02の症例にはワクチンを20回投与、それ以外の症例は再発まで無治療で経過観察する。			
医療技術名	cT4局所進行食道癌に対する術前50Gy化学放射線療法とplanned salvage surgery	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 手術をしても切除面に癌の遺残の可能性のある症例に対して根治量の化学放射線療法を行い、切除可能と判断すれば積極的に手術を追加してSalvegeを行い根治を目指す。			
医療技術名	頸部食道癌に対する喉頭温存術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 従来は喉頭合併切除が標準術式であった頸部食道癌に対して、化学放射線療法による抗腫瘍効果と我々の考案した喉頭温存術式および嚥下機能補助術式により、「声を残して癌を治す」ことを目指す集学的治療戦略である。			
医療技術名	気管浸潤進行食道癌に対する縦隔気管瘻(Grillo)術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 頸胸境界部で縦隔内の気管に浸潤する食道癌は切除不能とされ、根治的放射線療法で腫瘍が消失しない限りは治療法がないとされている。しかし、腫瘍が完全に消失する確率は僅か10%前後である。Grilloという縦隔気管瘻手術は前記患者に対しても根治が望める唯一の方法であるが、極めて難易度が高く、リスクが高いことから避けられてきた。我々はこれを克服する術式を考案し、患者のためにリスクをかけてこの唯一の治療法にかけて根治を目指している。			
医療技術名	StageII/III進行食道癌に対する新規DCF術前化学療法	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 JCOG9907試験の結果を受けて現在日本ではStageII/III食道癌に対する標準治療は術前化学療法+手術とされている。しかし、従来のFP化学療法は奏効率も36%と低く十分な効果は期待できず、特にStageIIIでは上乘せ効果は認められていない。一方、FPにDocetaxelを加えた新規レジメンの奏効率は60-70%と高く、StageIIIに対する有効性も含め生存率向上に大きく寄与すると考えられ、現在積極的に適応して成績向上を図っている。			
医療技術名	FDG-PETに基づいた進行食道癌治療戦略の個別化	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要 術前化学療法が標準化されたが全員に有効とは限らない。我々はFDG-PETの集積値:SUVmaxが収容量ならびに予後と強い相関があることを明らかにした。切除可能症例であっても、PETでFDGの集積がLNに認めるPET-N(+)は極めて予後不良で術前化学療法の適応である。一方PET-N(-)であれば70%の5生率が期待できる。しかしその中でも主腫瘍におけるFDGの集積値が6.02以上では遠隔再発を来しやすく予後不良で術前化学療法が必要である。このようにPETによる予後予測を基に術前治療の個別化を行い、治療の質向上を図っている。			
医療技術名	漿膜浸潤陽性進行胃癌に対するPaclitaxel腹腔内化学療法+3剤併用術前化学療法の有用性	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 漿膜浸潤陽性胃癌は腹膜播種再発の高危険群である。つまり腹膜播種を制御することが最大の鍵である。そこで腹腔内化学療法により腹腔内遊離癌細胞や腹膜播種細胞を、更に3剤全身化学療法で原発腫瘍およびLN転移巣を併せて攻撃することで強力に癌細胞を死滅させ、奏効後に手術を追加して根治を目指す治療である。			

医療技術名	75歳未満の4型または大型3型胃癌に対する術前化学放射線療法の有用性	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 4型または大型3型胃癌は強力に術前化学療法を行ったとしても原発巣の抗腫瘍効果はそれ程高くなく、術後の腹膜播種再発の可能性が高く、予後不良である。そこで原発腫瘍を強力に抑え込むことで腹腔への進展を抑制し、予後改善を図る目的で術前化学放射線療法を導入して成績向上を図っている。日本では胃癌に対して化学放射線療法を用いた初めての臨床試験である。			
医療技術名	75歳以上の4型または大型3型胃癌に対する術前化学放射線療法の有用性	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 4型または大型3型胃癌は腹膜播種再発高危険群であるが、75歳以上の高齢者に対しては臓器機能低下から強力な化学療法の上乗せは困難である。しかし手術単独ではほとんど治癒が望めないことも明らかである。そこで局所治療である放射線を追加し、局所制御効果を高めつつ、全身の副作用を抑えて治療完遂率を上げ、成績向上を図っている。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 胸部および腹部大動脈瘤に対して、開胸や開腹を行うことなく血管内治療ができる。			
医療技術名	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の遺伝子診断	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 近年ALSの発症関連遺伝子が次々と明らかとなり、特に若年発症ALSとの関連が示唆されている。			
医療技術名	転移性脳腫瘍の治療成績の検証	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 本邦における初発の頭蓋内原発胚細胞腫-多施設共同研究によるデータベース作成の試み。			
医療技術名	MICS(Minimally Invasive Cardiac Surgery: 低侵襲心臓手術)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ①僧帽弁疾患 ②大動脈弁疾患 ③先天性心疾患 ④不整脈 に対し、小切開により直視下またはVideo Assist下で低侵襲に心臓手術を行う。			
医療技術名	末期重症心不全に対する補人工心臓の植込み	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 あらゆる内科的治療や外科的治療でも効果がない末期重症心不全患者に対しては心臓移植が唯一の治療法であるが、ドナー数や移植タイミングに大きな制約があり、移植までの橋渡しの治療としての役割が大きい。			
医療技術名	糖脂質抗体および糖脂質複合体抗体の測定	取扱患者数	4,000人
当該医療技術の概要 糖脂質抗体は、ギラン・バレー症候群の診断に不可欠な抗体であり、主にELISA法によって測定を行っている。糖脂質複合体抗体は、当院当科オリジナルの抗体であり、独自の手法で測定を行っている。			
医療技術名	パーキンソン病の酸化DJ-1測定	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 DJ-1はパーキンソン病の原因遺伝子のひとつであり、パーキンソン病発症との関連が示唆されている。赤血球膜の酸化DJ-1が未治療のパーキンソン病で上昇するとの報告があり、補助診断としての応用を検討している。			
医療技術名	グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメイド治療法の開発を行う。			
医療技術名	小児頭蓋内悪性腫瘍の遺伝子診断	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 小児頭蓋内悪性腫瘍の遺伝子診断体制の構築 I. 髄芽腫、上衣腫			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 頭頸部腫瘍、頸部食道癌、あるいは前立腺癌などに対して照射強度を最適に変調したビームを用いる高精度放射線治療。通常照射法に比較して合併症の低減と局所制御の向上が示されている。			

医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 脳あるいは体幹部の原発性あるいは転移性腫瘍に対して多方向から高精度に照射し、1回大線量を数回で照射する高精度放射線治療。高い局所制御率が示されている。			
医療技術名	125-I永久挿入密封小線源治療	取扱患者数	57人
当該医療技術の概要 比較的 low リスクの前立腺癌に対して125-I線源を永久挿入する前立腺癌に対する根治的治療法。高い局所制御率が示されている。			
医療技術名	経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(以下 TIPS)は、門脈圧亢進症に起因するさまざまな症状に対する治療法であり、経皮的に肝内で門脈大循環短絡路を作成することで亢進した門脈圧を減圧します。			
医療技術名	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 胃静脈瘤の流出血管(通常は左腎静脈への後胃静脈)にバルーンカテーテルを挿入して、バルーンを膨らませて血流を止めた状態で胃静脈瘤およびそれを形成する血管叢に硬化剤(オルダミン)を注入して一定時間滞留させ、胃静脈瘤を止血します。			
医療技術名	MRIを用いた肝硬度測定	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要 肝臓の線維化診断において各種非侵襲的評価法が肝生検の代替検査となりうるか検討されているが、そのうち非侵襲的評価法としてMRI装置を用いたElastographyによる肝硬度測定が有用とされている。			
医療技術名	経皮経門脈塞栓術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 葉切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌患者に対し、左右いずれかの門脈を塞栓することにより残肝容積を増やし安全な手術を可能にする手技であり、超音波ガイドで門脈を経皮的に穿刺し、バルーンカテーテルとエタノールで門脈枝を塞栓する。			
医療技術名	骨腫瘍に対する経皮的骨形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍の骨転移に対し、除痛目的にてQOLの改善を目指す治療である。局所麻酔後、CTまたはX線ガイドに経皮的に骨生検針を病変のある椎体に挿入し、骨セメントを注入する。			
医療技術名	認知症における脳FDG-PET	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 脳の糖代謝異常をみることによりアルツハイマー病と他の認知症疾患を鑑別することができる。本年度中に先進医療Bで施行予定の検査法である。			
医療技術名	脳アミロイドPET	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 アルツハイマー病の原因とされるアミロイドタンパクの脳への沈着をPETにより生体で画像化できる検査。			
医療技術名	腰痛に対するパルス高周波熱凝固法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 腰痛椎間板関節症ならびに仙腸関節性腰痛に対して、X線透視下に専用の針を刺入し、パルス高周波による熱凝固を行っている。			
医療技術名	経皮的髄核摘出術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 頸部、腰痛の椎間板ヘルニアに対して、専用のDecompressorを用いて、低侵襲に髄核の摘出を行っている。			
医療技術名	仙腸関節由来の痛みに対する高周波熱凝固法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 仙腸関節の異常に起因する腰痛に対してX線透視化でのパルス高周波熱凝固法を行っている。			

医療技術名	ゲフィチニブによる術後補助化学療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 比較第III相試験 西日本癌研究多施設共同の医師主導治験 EGFR遺伝子変異陽性のII期、III期非小細胞肺癌術後患者			
医療技術名	ゲフィチニブと放射線治療の同時併用療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 単アーム第II相試験 WJOG多施設共同医師主導臨床試験			
医療技術名	肺がんを対象としたドライバー遺伝子変異の分子スクリーニング	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要 医師主導臨床試験 パラフィン包埋ブロックからDNAおよびRNAを抽出 次世代シーケンサーなどを用いて約30遺伝子の遺伝子異常と融合遺伝子を検出する。			
医療技術名	固形癌を対象としたドライバー遺伝子変異の分子スクリーニング	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要 医師主導臨床試験 パラフィン包埋ブロックからDNAおよびRNAを抽出 次世代シーケンサーなどを用いて約30遺伝子の遺伝子異常と融合遺伝子を検出する。			
医療技術名	cMET阻害剤INC280単剤による治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 企業治験による臨床第II相試験 肺扁平上皮癌の2次、3次治療症例			
医療技術名	アベマサイクリブとエルロチニブの併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 企業治験の第III相比較試験 KRAS変異陽性のIV期非小細胞肺癌 プラチナ併用療法治療後の2次治療、3次治療症例			
医療技術名	エルロチニブとラムシルマブの併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 企業治験によるIb/III相試験 EGFR遺伝子変異陽性肺がん初回治療例が対象 エルロチニブ150mg/日連日投与とラムシルマブ10mg iv/2週を併用する。			
医療技術名	第3世代EGFRチロシナーゼ阻害剤ASP8273単剤による治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 企業治験による第II相試験 EGFR遺伝子変異陽性肺がん初回治療例およびプラチナ併用療法後の症例が対象。 ASP8273単剤を300mg/日で連日投与			
医療技術名	AZD9291単剤による治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 企業治験による比較第II相試験 EGFR遺伝子陽性T790M陽性非小細胞肺癌 AZD9291単剤80mg/日連日投与			
医療技術名	アフアチニブ単剤による治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 バイオマーカー探索を目指した単アーム第II相試験 WJOG多施設共同医師主導臨床試験 アフアチニブ40mg/日連日投与			

医療技術名	PARP阻害剤M14-359Valiparibとカルボプラチン+パクリタキセル併用療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 企業治験による第III相試験 非扁平非小細胞肺癌初回治療例を対象 現喫煙者および元喫煙者を対象とした臨床試験			
医療技術名	第3世代EGFRチロシンキナーゼ阻害剤CO-1686単剤による治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 企業治験による第I・II相試験 EGFR遺伝子変異陽性症例で、すでに第1世代EGFRチロシンキナーゼ阻害剤の既治療例 CO-1686の投与量を漸増しMTDを決定する試験			
医療技術名	AXL阻害剤ASP2215とタルセバの併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 企業治験による併用臨床第I相試験 EGFR遺伝子変異陽性症例 第1世代EGFRチロシンキナーゼ阻害剤の既治療例でT790M遺伝子変異陰性症例			
医療技術名	肺がんを対象としたPD1抗体であるMK3475とプラチナ併用療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 企業治験の併用第I相比較試験 IV期非小細胞肺癌初回治療例 シスプラチン+ペメトレキセドまたはカルボプラチン+ペメトレキセドを選択して併用			
医療技術名	第2世代ALK阻害剤セリチニブ単剤による治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 企業治験によるII相試験 EML4-ALK融合遺伝子陽性クリゾチニブ既治療症例を対象			
医療技術名	胃がんを対象としたPD1抗体ニボルマブ単剤の治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 企業治験による第III相試験 標準治療のない進行胃がん症例を対象			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	136人	・膿疱性乾癬	22人
・多発性硬化症	109人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	110人	・原発性胆汁性肝硬変	53人
・全身性エリテマトーデス	340人	・重症急性膵炎	27人
・スモン	20人	・特発性大腿骨頭壊死症	56人
・再生不良性貧血	63人	・混合性結合組織病	53人
・サルコイドーシス	125人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	46人	・特発性間質性肺炎	37人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	288人	・網膜色素変性症	102人
・特発性血小板減少性紫斑病	124人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	89人	・肺動脈性肺高血圧症	22人
・潰瘍性大腸炎	138人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	36人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	32人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	52人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10人
・脊髄小脳変性症	53人	・ライゾーム病	1人
・クローン病	48人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	21人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	26人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	143人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	28人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	42人
・後縦靭帯骨化症	68人	・肥大型心筋症	8人
・ハンチントン病	17人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	36人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	41人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	60人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	2人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	28人	・黄色靭帯骨化症	5人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、A DH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、 クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	93人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ 総合評価加算
・ 歯科外来診療環境体制加算	・ データ提出加算
・ 歯科診療特別対応連携加算	・ 救命救急入院料
・ 特定機能病院入院基本料	・ 特定集中治療室管理料
・ 臨床研修病院入院診療加算	・ 新生児特定集中治療室管理料 1
・ 救急医療管理加算	・ 新生児治療回復室入院医療管理料
・ 超急性期脳卒中加算	・ 小児入院医療管理料 2
・ 妊産婦緊急搬送入院加算	・ 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・ 診療録管理体制加算	・
・ 急性期看護補助体制加算	・
・ 看護職員夜間配置加算	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算	・
・ 感染防止対策加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ ハイリスク妊婦管理加算	・
・ ハイリスク分娩管理加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・ 救急搬送患者地域連携受入加算	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

No.1

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料	・コンタクトレンズ検査料 1
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料	・センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・院内トリアージ実施料	・画像診断管理加算 2
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影、ポジトロン断層
・地域連携診療計画管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携管理料	・外傷全身CT加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・大腸CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料 1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料 2	・外来化学療法加算 1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・心大血管疾患リハビリテーション料（I）
・検体検査管理加算（IV）	・脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
・遺伝カウンセリング加算	・運動器リハビリテーション料（I）
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・呼吸器リハビリテーション料（I）
・植込型心電図検査	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験	・イタールの局所注入（甲状腺に対するもの）
・胎児心エコー法	・透析液水質確保加算
・ヘッドアップティルト試験	・一酸化窒素吸入療法
・皮下連続式グルコース測定	・歯科技工加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）

・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・輸血管理料Ⅰ
・経皮的冠動脈形成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	・内視鏡手術用支援機器加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・麻酔管理料（Ⅰ）
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・放射線治療専任加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・外来放射線治療加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術（レーザーシースを用いるもの）	・高エネルギー放射線治療
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・強度変調放射線治療（IMRT）
・大動脈バルーンポンプ法（IABP法）	・体外照射呼吸性移動対策加算
・補助人工心臓	・定位放射線治療
・経皮的大動脈遮断術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・ダメージコントロール手術	・病理診断管理加算
・体外衝撃波胆石破碎術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下肝切除術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・歯科治療総合医療管理料
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・持続血糖測定器加算
・同種死体腎移植術	・光トポグラフィー
・生体腎移植術	・CAD/CAM冠
・膀胱水圧拡張術	・網膜再建術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・植込型補助人工心臓（非拍動流型）
・人工尿道括約筋植込・置換術	・歯科口腔リハビリテーション料2
・組織拡張器による再建術（一連につき）（乳房再建術の場合に限る）	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・羊膜移植術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）	・口腔病理診断管理加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術

・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）	・胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）
-------------------------	--------------------------------

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	18回 / 年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 27 例 / 剖検率 4.46%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復-多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	赤木 将男	整形外科	3,500,000	補委 厚生労働省
建築物環境衛生管理に係る行政監視等に関する研究	東 賢一	環境医学・行動科学	1,500,000	補委 厚生労働省
科学的エビデンスに基づく新シックハウス症候群に関する相談と対策マニュアル	東 賢一	環境医学・行動科学	300,000	補委 厚生労働省
腹膜播種を伴う胃癌に対するパクリタキセル腹腔内投与併用療法の有用性を評価する第Ⅲ相臨床試験	今本 治彦	外科学	1,540,000	補委 厚生労働省
高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関する臨床試験	今本 治彦	外科学	1,100,000	補委 厚生労働省
去勢抵抗性前立腺がんに対する新規がんペプチドワクチン療法開発のための第Ⅰ相・第Ⅱ相(前半)臨床試験	植村 天受	泌尿器科学	1,500,000	補委 厚生労働省
進展型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射の実施の有無を比較するランダム化比較第Ⅲ相試験	金田 裕靖	腫瘍内科	500,000	補委 厚生労働省
遺伝性ポルフィリン症:新しいガイドラインの確立	川田 暁	皮膚科学	80,000	補委 厚生労働省
小児・若年者の視覚障害の早期発見・診断・治療・訓練・リハビリ等の自立支援に資する技術開発等に関する研究	日下 俊次	堺病院眼科	900,000	補委 厚生労働省
治験の実施に関する研究[サリドマイド]	楠 進	神経内科科学	1,200,000	補委 厚生労働省
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	楠 進	神経内科科学	24,000,000	補委 厚生労働省
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	楠 進	神経内科科学	700,000	補委 厚生労働省
スモンに関する調査研究	楠 進	神経内科科学	500,000	補委 厚生労働省
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	楠 進	神経内科科学	950,000	補委 厚生労働省
アトピー関連脳脊髄・末梢神経障害の病態解明と画期的治療法の開発	楠 進	神経内科科学	750,000	補委 厚生労働省
ドラッグ・リポジショニングによる視神経脊髄炎(NMO)の治療薬開発に関する研究	楠 進	神経内科科学	2,500,000	補委 厚生労働省
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	工藤 正俊	消化器内科	31,000,000	補委 厚生労働省
新規血漿因子HRGによる好中球制御を介した敗血症と多臓器不全の治療法開発	高橋 英夫	薬理学	1,500,000	補委 厚生労働省
腎・泌尿器系の希少・難治性疾患群に関する診断基準・診療ガイドラインの確立	竹村 司	堺病院小児科	1,000,000	補委 厚生労働省
難治性膵疾患に関する調査研究	竹山 宜典	外科学	18,847,000	補委 厚生労働省
切除不能進行・再発胃癌に対する個別化治療と最適化標準療法に関する研究	田村 孝雄	腫瘍内科	1,100,000	補委 厚生労働省
難治性平衡機能障害に関する調査研究	土井 勝美	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委 厚生労働省
気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究	東田 有智	呼吸器・アレルギー内科	1,000,000	補委 厚生労働省

進行非小細胞肺癌を対象としたエルロチニブとYM155の分子標的治療薬併用第Ⅰ相試験	中川 和彦	腫瘍内科	99,450,000	補委	厚生労働省
がん疼痛へのオピオイド使用に対するバイオマーカーを用いたランダム化比較試験	中川 和彦	腫瘍内科	38,000,000	補委	厚生労働省
未治療原発不明癌に対する次世代シーケンスを用いた原発巣推定に基づく治療効果の意義を問う第Ⅱ相試験	中川 和彦	腫瘍内科	38,000,000	補委	厚生労働省
高齢者進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対する標準的科学的療法の確立に関する研究	中川 和彦	腫瘍内科	1,080,000	補委	厚生労働省
希少がんに対するウイルス療法の実用化臨床研究	中原 寛和	歯科口腔外科	800,000	補委	厚生労働省
次世代型コンパニオン診断薬の創出に向けた橋渡し研究	西尾 和人	ゲノム生物学	37,498,000	補委	厚生労働省
Liquid Biopsyによる分子標的薬の治療感受性・抵抗性の予測および新規	西尾 和人	ゲノム生物学	21,000,000	補委	厚生労働省
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	西村 恭昌	放射線医学(放射線腫瘍学)	23,000,000	補委	厚生労働省
難治性食道がんの治療方針決定に資する技術開発に関する研究	西村 恭昌	放射線医学(放射線腫瘍学)	1,000,000	補委	厚生労働省
医療における放射線防護と関連法令整備に関する研究	細野 眞	高度先端総合医療センターPET分子イメージング部	3,000,000	補委	厚生労働省
治験の実施に関する研究[テムシロリムス]	万代 昌紀	産科婦人科学	900,000	補委	厚生労働省
視神経脊髄炎動物モデル作成によるテーラーメイド治療の確立	宮本 勝一	神経内科科学	3,000,000	補委	厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	虫明 聡太郎	奈良病院小児科	300,000	補委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	虫明 聡太郎	奈良病院小児科	200,000	補委	厚生労働省
グレリン投与による高齢者食道癌手術の安全性向上に関するランダム化第Ⅱ相試験	安田 卓司	外科学	900,000	補委	厚生労働省
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	山本 嘉一郎	堺病院産婦人科	1,500,000	補委	厚生労働省
先天性難治性稀少泌尿生殖器疾患群(総排泄腔遺残、総排泄腔外反、MRKH症候群)におけるスムーズな成人期医療移行のための分類・診断・治療ガイドライン作成	米倉 竹夫	奈良病院小児外科	300,000	補委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における包括的な診断・治療ガイドライン作成に関する研究	米倉 竹夫	奈良病院小児外科	200,000	補委	厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	米倉 竹夫	奈良病院小児外科	200,000	補委	厚生労働省
FGF3遺伝子増幅による肝細胞癌ソラフェニブ治療の効果予測	西尾 和人	ゲノム生物学	7,000,000	補委	日本学術振興会
CML幹細胞の特性解析	松村 到	血液・膠原病内科	6,000,000	補委	日本学術振興会
プロテオグリカンの糖鎖に焦点をあてた神経難病の病態解明と治療戦略の構築	楠 進	神経内科科学	3,600,000	補委	日本学術振興会
髄鞘による軸索機能制御に関わる細胞内・細胞間情報伝達機構の解明	宮田 信吾	東洋医学研究所	2,200,000	補委	日本学術振興会
細胞内ウイルス複製制限因子APOBEC3の遺伝子多型による宿主免疫応答制御機構	宮澤 正顕	免疫学	1,200,000	補委	日本学術振興会
骨折リスク評価を基盤に関連疾患の同時対策を目指す男性骨粗鬆症コホート5年次追跡	伊木 雅之	公衆衛生学	100,000	補委	日本学術振興会
免疫性神経疾患における糖鎖へのBリンパ球応答のネガティブレギュレーター解析	楠 進	神経内科科学	1,400,000	補委	日本学術振興会

腎細胞癌に対するマルチペプチドワクチンの開発	植村 天受	泌尿器科学	700,000	補委	日本学術振興会
体脂肪分布の多様性の形成と代謝循環機能:日本人小児一般集団の大規模追跡研究	甲田 勝康	公衆衛生学	1,500,000	補委	日本学術振興会
救急医療におけるワークフォースに関する検討	平出 敦	救命救急医学	2,400,000	補委	日本学術振興会
新奇アジュバントを用いたCTL誘導性ウエストナイルウイルスワクチンの開発	正木 秀幸	生化学	100,000	補委	日本学術振興会
異種感覚刺激をもちいた時間知覚の脳内機構の解明	生塩 研一	基礎医学部門	1,100,000	補委	日本学術振興会
緑茶が及ぼす脳外傷局所に出現する神経幹細胞の成熟、分化への影響に関する研究	佐藤 隆夫	病理学	1,100,000	補委	日本学術振興会
脂質代謝と酸化ストレス制御間のクロストーク機構に及ぼす食餌中脂質組成の役割	上裕 俊法	臨床検査医学	700,000	補委	日本学術振興会
新規作用機序をもつ高血圧症治療薬開発の基礎的研究	高橋 英夫	薬理学	1,100,000	補委	日本学術振興会
骨・軟骨再生における組織線溶系の役割の解明	梶 博史	再生機能医学	1,200,000	補委	日本学術振興会
哺乳類中枢時計に存在する短周期領域の解析	鯉沼 聡	解剖学	800,000	補委	日本学術振興会
ストレス関連疾患における神経-マスト細胞相互作用の増強:接着分子CADM1の関与	伊藤 彰彦	病理学	1,200,000	補委	日本学術振興会
包括的エピゲノム解析に基づいた脂肪性肝疾患からの肝発癌予測因子の同定	西田 直生志	消化器内科	1,100,000	補委	日本学術振興会
2型糖尿病発症因子解明のための戦略:機能分割と再統合	馬場谷 成	内分泌・代謝・糖尿病内科	800,000	補委	日本学術振興会
自己免疫疾患における標的臓器決定因子の解明と治療への展開:1型糖尿病と膵β細胞	池上 博司	内分泌・代謝・糖尿病内科	700,000	補委	日本学術振興会
p53遺伝子変異と治療早期のSer46リン酸化誘導からみた食道癌個別化治療戦略	安田 卓司	外科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対する癌ワクチン療法に応用しうるペプチドの同定	南 高文	泌尿器科学	500,000	補委	日本学術振興会
地域高齢者の夜間頻尿が睡眠に及ぼす影響に関する研究	平山 暁秀	奈良病院泌尿器科	500,000	補委	日本学術振興会
卵巣明細胞腺癌の抗癌剤耐性克服による新規治療法の開発	金山 清二	奈良病院産婦人科	1,100,000	補委	日本学術振興会
学校における心停止の疫学調査	西内 辰也	救命救急医学	800,000	補委	日本学術振興会
中枢神経障害による筋緊張異常症の代謝機能に及ぼす影響と治療評価に関する研究	内山 卓也	脳神経外科学	500,000	補委	日本学術振興会
パーキンソン病の歩行障害に対する脊髄刺激療法の刺激機序と効果的な刺激方法の探求	中野 直樹	脳神経外科学	500,000	補委	日本学術振興会
鍼刺激療法を用いた心不全に対する新規制御システムの構築	山本 裕美	循環器内科	700,000	補委	日本学術振興会
レスベラトロールのアザ誘導体化合物による細胞増殖抑制機構の解明	藤田 至彦	ゲノム生物学	1,200,000	補委	日本学術振興会
脳白質におけるリン酸化とメチル化をキーとしたうつ病発症機構の解明	宮田 信吾	東洋医学研究所	1,200,000	補委	日本学術振興会
組織線溶系によるマクロファージを介した新規な骨・軟骨再生機構	河尾 直之	再生機能医学	1,300,000	補委	日本学術振興会
レトロウイルスのToll様受容体を利用した免疫回避機構の解明	河原 佐智代	免疫学	1,400,000	補委	日本学術振興会

HIV-1 Vprによるオートファジー制御の分子機構と感染における意義の解明	博多 義之	免疫学	1,300,000	補委	日本学術振興会
膝疾患の診断能・予後の向上を目指した超音波内視鏡技術の開発	北野 雅之	消化器内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
気道平滑筋の遊走能と収縮能の制御に基づく喘息分子標的療法	久米 裕昭	呼吸器・アレルギー内科	700,000	補委	日本学術振興会
神経変性疾患の新規原因蛋白p62とユビキリン2の関連と治療的蛋白分解亢進	平野 牧人	神経内科科学	1,200,000	補委	日本学術振興会
1型糖尿病遺伝子解析による免疫制御機構の解明と発症予防への展開	廣峰 義久	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
変異型レセプター型チロシンキナーゼの細胞内輸送を標的とした新規白血病治療法の開発	田中 宏和	血液・膠原病内科	1,200,000	補委	日本学術振興会
近赤外線スペクトロスコピによる気分障害におけるリチウム反応性、自殺傾性の評価	白川 治	精神神経科学教室	2,700,000	補委	日本学術振興会
アルファ線放出核種ラジウム-223による骨転移治療の基礎的検討	細野 眞	放射線医学(放射線診断学)	900,000	補委	日本学術振興会
金属粉含有機能紙による新しい放射線防護材の研究・開発	門前 一	放射線医学(放射線腫瘍学)	900,000	補委	日本学術振興会
腫瘍内低酸素イメージングに基づく高精度放射線治療の開発	西村 恭昌	放射線医学(放射線腫瘍学)	1,200,000	補委	日本学術振興会
ストレス応答分子としてのRhoファミリータンパク質の機能と関節変性反応への関与	福田 寛二	放射線医学(放射線腫瘍学)	1,200,000	補委	日本学術振興会
レニン・アンジオテンシン系の変形性膝関節症の発症および進行に与える影響	赤木 将男	整形外科学	1,100,000	補委	日本学術振興会
吸収性ナノファイバーを応用した自家移植モデルにおける耳介形状軟骨の再生誘導	磯貝 典孝	形成外科学	1,600,000	補委	日本学術振興会
運動習慣による傷害脳再生起点の延長	丹羽 淳子	薬理学	1,600,000	補委	日本学術振興会
運動中の体性感覚フィードバック処理のメカニズム	村田 哲	生理学	1,700,000	補委	日本学術振興会
大脳皮質と基底核の機能連関による時間計測機構	稲瀬 正彦	生理学	1,900,000	補委	日本学術振興会
HER2陽性乳癌、胃癌におけるheregulinによる抗HER2薬の効果予測	鶴谷 純司	腫瘍内科	1,600,000	補委	日本学術振興会
胚盤胞を抗原として網羅的に作製したモノクローナル抗体ライブラリーの抗原同定	佐藤 泰史	病理学	1,900,000	補委	日本学術振興会
体内時計中枢である視交叉上核における光入力制御に係わるゲート機構の解明	長野 護	解剖学	1,900,000	補委	日本学術振興会
体内時計中枢ゲート機構の探求一位相特異的光照射情報遮断の仕組みに迫る	重吉 康史	解剖学	1,500,000	補委	日本学術振興会
粘膜免疫における CCL28 の役割の解明	義江 修	細菌学	1,900,000	補委	日本学術振興会
大規模男性コホート研究による骨粗鬆症性骨折リスク評価法FRAXの有効性評価と改良	由良 晶子	公衆衛生学	2,400,000	補委	日本学術振興会
大腸癌、炎症性腸疾患における新規治療標的分子およびバイオマーカーの探索	櫻井 俊治	消化器内科	1,400,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息における呼吸困難と脳活動に関する研究	東本 有司	呼吸器・アレルギー内科	2,000,000	補委	日本学術振興会
IRS1/インスリンシグナルによるポドサイト障害修復メカニズムの解明	美馬 晶	奈良病院血液内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
1型糖尿病濃厚発症家系を用いた1型糖尿病疾患感受性遺伝子の同定と機能解析	川畑 由美子	内分泌・代謝・糖尿病内科	2,300,000	補委	日本学術振興会

免疫寛容破綻の機序解明とその制御による1型糖尿病発症修飾への応用	能宗 伸輔	内分泌・代謝・糖尿病内科	1,900,000	補委	日本学術振興会
エピジェネティック制御因子HDAC8のATL発がんにおける役割の解明	樋口 智紀	細菌学	1,600,000	補委	日本学術振興会
ミノリピン吸収における濃縮型拡散トランスポーターの関与	岡田 満	小児科学	900,000	補委	日本学術振興会
抗精神病薬の作用機序を探る;Kv3チャネルファミリーの発現調節	柳 雅也	精神神経科学教室	1,900,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧症が小児期の精神・行動発達に及ぼす影響に関する分子基盤の解明	田淵 正樹	生化学	1,000,000	補委	日本学術振興会
非侵襲的組織成分診断の為にVirtual CT生検技術の確立	村上 卓道	放射線医学(放射線診断学)	2,200,000	補委	日本学術振興会
転移性脳腫瘍におけるWT1ワクチン療法・分子標的治療併用新規集学的治療法の開発	泉本 修一	脳神経外科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
迷走神経刺激療法におけるレスポンスのバイオマーカーの探求	加藤 天美	脳神経外科学	1,600,000	補委	日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞移植した同種脱細胞化神経片含有血管柄入りチューブ内での神経再生	柿木 良介	整形外科	1,600,000	補委	日本学術振興会
前立腺特異的PTEN/p53ダブルノックアウトマウスモデルに関する研究	デベラスコ マルコ	泌尿器科学	1,800,000	補委	日本学術振興会
羊水特異マーカーSCCを用いた母体への羊水流入の影響に関して	大井 豪一	奈良病院産婦人科	2,200,000	補委	日本学術振興会
聴覚器官としての球形囊の役割—不可聴音の聴覚認知への関与—	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科学	3,100,000	補委	日本学術振興会
両眼開放視野計の開発ならびに正常者、緑内障への応用	松本 長太	眼科学	3,600,000	補委	日本学術振興会
自動動的視野測定プログラムの臨床開発	橋本 茂樹	眼科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
未熟児網膜症におけるperiostinの役割と2種の抗血管内皮増殖因子治療の検討	日下 俊次	堺病院	1,700,000	補委	日本学術振興会
標的蛋白化学的切除試薬(ケミカルシザーズ)の開発と応用	野崎 修	臨床検査医学	1,600,000	補委	日本学術振興会
体脂肪の量と分布と血清脂質亜分画の多型を探る	甲田 勝康	公衆衛生学	900,000	補委	日本学術振興会
非侵襲的腰椎海綿骨微細構造解析法の日本人への適用 椎体骨折リスクの予測性能評価	伊木 雅之	公衆衛生学	600,000	補委	日本学術振興会
OMICS情報を臨床診療に反映するためのインターフェースとバーチャルカルテの開発	万代 昌紀	産婦人科学	1,700,000	補委	日本学術振興会
救急応需の基幹的問題の解明に関する検討	平出 敦	救命救急医学	900,000	補委	日本学術振興会
糸球体血行動態調節機構の加齢性変化:腎臓の老化における病態生理的意義	有馬 秀二	腎臓内科	800,000	補委	日本学術振興会
PTEN/Atg7 DKOマウス前立腺癌におけるオートファジー機能解析の研究	植村 天受	泌尿器科学	1,600,000	補委	日本学術振興会
				補委	

計 123

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名/巻数・号数/ 該当ページ/出版年
1	辻井 農重	精神神経科	Right temporal activation differs between melancholia and nonmelancholic depression: A multichannel near-infrared spectroscopy study	Jornal of Psychiatric Research/55/1-7/2014
2	辻井 農重	精神神経科	Discrepancy between self- and observer-rated depression severities as a predictor of vulnerability to suicide in patients with mild depression.	Jornal of Affective Disorders/161/144-149/2014
3	奥野 清隆 杉浦 史哲	外科学 (下部消化管)	Clinical trial of a 7-peptide cocktail vaccine with oral chemotherapy for patients with metastatic colorectal cancer.	Anticancer Research/34/3045-3052/2014
4	肥田 仁一	外科学 (下部消化管)	Distal dissection in total mesorectal excision, and preoperative chemoradiotherapy and lateral lymph node dissection for rectal cancer.	Surg Today/44(12)/2227-2242/2014
5	所 忠男	外科学 (下部消化管)	Prognostic factors for patients with advanced colorectal cancer and symptomatic brain metastases.	Clinical Colorectal Cancer/13(4)/226-231/2014
6	小北 晃弘	外科学 (下部消化管)	Inter- and intra-tumor profiling of multi-regional colon cancer and metastasis	Biochemical and Biophysical Resaerch Communications/458/52-56/24January 2015
7	國吉 一樹	眼科学教室	Longitudinal clinical course of three Japanese patients with Leber congenital amaurosis/early-onset retinal dystrophy with RDH12 mutation	Doc Ophthalmol128(3): 219-228; 2014
8	阿部 考助	眼科学教室	Optical coherence tomographic findings at the fixation point in a case of bilateral congenital macular coloboma	Clinical Ophthalmology8: 1017-1020; 2014
9	杉岡 孝二	眼科学教室	The roles of urokinase-type plasminogen activator in leukocyte infiltration and inflammatory responses in mice corneas treated with lipopolysaccharide	Invest Ophthalmol Vis Sci55(8): 5338-5350; 2014
10	南 毅	眼科学教室	Intravitreal Injection of Bevacizumab for Retinopathy of Prematurity in an Infant with Peters Anomaly	Case Rep Ophthalmol5(3) : 318-324; 2014
11	岡本 紀夫	眼科学教室	Sequential occlusion of the branch retinal artery and branch retinal vein in a patient with hypertension: an interventional case report	Clinical Ophthalmology8: 2121-2123; 2014
12	檜垣 史郎	眼科学教室	Virological and molecular biological evidence supporting herpes simplex virus type 1 corneal latency	Jan J Ophthalmol59(2): 131-134; 2015
13	西内 辰也	救急医学	The Current Status of Development and Implementation of Medical Emergency Response Plan in Schools	Pediatric Emergency Care/2015/ in print
14	朝村 真一	形成外科学	Efficacy and feasibility of the submuscular implantation technique for an implantable cardiac electrical device.	eplasty/e40/322-327/2014年
15	伊谷 善仁	形成外科学	Evaluation of Nanofiber-Based Polyglycolic Acid Scaffolds for Improved Chondrocyte Retention and In Vivo Bioengineered Cartilage	Plastic and Reconstructive Surgery/133(6)/805e-813e/2014年
16	Makino Y,	呼吸器・アレルギー内科	Cavitary pulmonary cryptococcosis with an Aspergillus fungus ball.	Intern Med/53(23):2737-9/2014

17	Hanada S,	呼吸器・アレルギー内科	Questionnaire on swirching from the tiotropium HandiHaler to the Respimat inhaler in patients with chronic obstructive pulmonary disease:changes in handling and preferences immediately and several years after the switch.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis/6;10:69-77/2015
18	Higashimoto Y,	呼吸器・アレルギー内科	Influence of comorbidities on the efficacy of pulmonary rehabilitation in patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Geriatr Gerontol Int/10.1111/2015
19	Santo H	呼吸器・アレルギー内科	Mediastinal fibrosis and positive antineutrophil cytoplasmic antibodies:coincidence or common etiology?	Internal Med/53(3):275-7/2014
20	Ohno T	呼吸器・アレルギー内科 (奈良)	Efficacy of indacaterol on quality of life and pulmonary function in patients with COPD and inhaler device preferences.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis/9:107-14/2014
21	Kobayashi Y, Sakao Y, Deshpande GA, Fukui T, Mizuno T, Kuroda H, Sakakura N, Usami N, Yatabe Y, Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine; Department of Thoracic Surgery, Aichi Cancer Center Hospital	The association between baseline clinical-radiological characteristics and growth of pulmonary nodules with ground-glass opacity.	Lung Cancer 83:61-6, 2014
22	Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Molecular epidemiology of lung cancer and geographic variations with special reference to EGFR mutation. :	Transl Lung Cancer Res 33:205-211, 2014
23	Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Dacomitinib: another option for EGFR-mutant lung cancer?	Lancet Oncol 15:1408-9, 2014
24	Suda K, Mizuuchi H, Murakami I, Uramoto H, Tanaka F, Sato K, Takemoto T, Iwasaki T, Sekido Y, Yatabe Y, Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	CRKL amplification is rare as a mechanism for acquired resistance to kinase inhibitors in lung cancers with epidermal growth factor receptor mutation.	Lung Cancer 85:147-51, 2014
25	Suda K, Sato K, Mizuuchi H, Kobayashi Y, Shimoji M, Tomizawa K, Takemoto T, Iwasaki T, Sakaguchi M, Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Recent evidence, advances, and current practices in surgical treatment of lung cancer.	Respir Investig 52:322-9, 2014
26	Suda K, Sato K, Shimizu S, Tomizawa K, Takemoto T, Iwasaki T, Sakaguchi M, Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Prognostic implication of predominant histologic subtypes of lymph node metastases in surgically resected lung adenocarcinoma.	Biomed Res Int 2014:645681, 2014
27	Tomizawa K, Usami N, Fukumoto K, Sakakura N, Fukui T, Ito S, Hatooka S, Kuwano H, Mitsudomi T, Sakao YR	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Risk assessment of perioperative mortality after pulmonary resection in patients with primary lung cancer: the 30- or 90-day mortality.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 62:308-13, 2014

28	Kobayashi Y, Mitsudomi T, Sakao Y, Yatabe	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine; Department of Thoracic Surgery, Aichi Cancer Center Hospital	Genetic features of pulmonary adenocarcinoma presenting with ground-glass nodules: the differences between nodules with and without growth.	Ann Oncol 26:156-61, 2015
29	Mizuuchi H, Suda K, Sato K, Tomida S, Fujita Y, Kobayashi Y, Maehara Y, Sekido Y, Nishio K, Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Collateral chemoresistance to anti-microtubule agents in a lung cancer cell line with acquired resistance to erlotinib.	PLoS One 10:e0123901, 2015
30	Suda K, Mitsudomi T	Department of Surgery, Division of Thoracic Sugery, Kinki University Faculty of Medicine	Racial differences in lung cancer genetics.	J Thorac Oncol 10:230-1, 2015
31	榎本 明史	歯科口腔外科	Tongue cancer with mental retardation due to microcephaly: a clinical report	World Journal of Surgical Oncology 07/2015; 13(1):216.
32	Seo T	Dept.of Otolaryngology, Kinki Univ.	Intractable persistent direction-changing geotropic nystagmus improved by lateral semicircular canal plugging.	Case Reports in Otolaryngology 2015: 192764, 2015
33	Shinichiro Ikuta Kazuhiro Kobuke Yoshitaka Iwanaga Yoshifumi Nakauchi Kenji Yamaji Shunichi Miyazaki	Division of Cardiology, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Osaka, Japan	Difference in neointimal coverage at chronic stage between bare metal stent and sirolimus-eluting stent evaluated at stent-strut level by optical coherence tomography	Heart and Vessels /(2014)29/320-327/2014
34	Masakazu Yasuda Yoshitaka Iwanaga Takashi Nakamura Hanako Morooka Shunichi Miyazaki	Division of Cardiology, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Osaka, Japan	Relationship between clinical manifestations and CMR findings in cardiac sarcoidosis	Acta Media Kinki University/39(1)/21-28/2014
35	Yuzuru Akaiwa Takashi Kurita Ryobun Yasuoka Yasuhito Kotake Koichiro Motoki Hiromi Yamamoto Yoshitaka Iwanaga Shunichi Miyazaki	Division of Cardiology, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Osaka, Japan	Relation between low take-off the left atrial appendage and thromboembolic events in patients with atrial fibrillation: evaluation with multidetector CT	Acta Media Kinki University/39(1)/47-55/2014
36	Kenji Yamaji Masafumi Ueno Hiroyuki Yamamoto Tomoyuki Ikeda Tatsuya Suga Shinichiro Ikuta Kazuhiro Kobuke Yoshitaka Iwanaga Shunichi Miyazaki	Division of Cardiology, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Osaka, Japan	Backyards of Chronic Total Occlusion: Scenery Revealed Through Angioscope	Circulation/129(25)/2715-2716/2014
37	Kazumichi Isono Yoshitaka Iwanaga Shunichi Miyazaki	Division of Cardiology, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Osaka, Japan	Reduced Glomerular Filtration Rate Is Associated with Atheroma Progression in Early-stage Diabetes Patients with Coronary Artery Disease -Sub-analysis from DIANA study -	Acta Media Kinki University//39(2)/75-81/2014

38	Takashi Nakamura Yoshitaka Iwanaga Masakazu Yasuda Tomoyuki Ikeda Hanako Morooka Shunichi Miyazaki	Division of Cardiology, Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Kinki Osaka, Japan	The Onset of heart failure is associated with the extent of LV fibrosis in hypertrophic cardiomyopathy :insights from cardiac magnetic resonance analysis	Acta Media Kinki University/2014/39(2)/89-96
39	Okano M, Sakata N, Ueda S, Takemura T.	Department of Pediatrics, Kinki University Faculty	Recovery from life-threatening transplantation-associated thrombotic microangiopathy using eculizumab in a patient with very severe aplastic anemia.	Bone Marrow Transplant. 2014 Aug;49(8):1116-8. doi: 10.1038/bmt.2014.97. Epub 2014 May 12. No abstract available.
40	Aoki H, Nakamura Y, Takeno S, Takemura T.	Department of Pediatrics, Kinki University Faculty of Medicine	A new procedure for a trans-conduit puncture by grasping the dilator tip with a snare catheter: an alternative access method during catheter ablation of supraventricular tachycardias after an extracardiac Fontan operation.	Heart Rhythm. 2014 Aug;11(8):1492-4. doi: 10.1016/j.hrthm.2013.10.036. Epub 2013 Oct 22. No abstract available.
41	Minami Y, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of	Therapeutic response assessment of RFA for HCC: contrast-enhanced US, CT and MRI	World J Gastroenterol 20:4160-4166, 2014
42	Kudo M, Arizumi T, Ueshima K	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of	ART score for repeated transarterial chemoembolization in patients with hepatocellular carcinoma	Hepatology 59:2424-2425, 2014
43	Kitano M, Kamata K, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of	Endoscopic ultrasonography-guided gallbladder drainage procedures: is the glass half-full or half-empty?	Digest Endosc 26:636-637, 2014
44	Kudo M, Matsui O, Izumi N, Iijima H, Kadoya M, Imai Y, Okusaka T, Miyayama S, Tsuchiya K, Ueshima K, Hiraoka A, Ikeda M, Ogasawara S, Yamashita T, Minami T, Yamakado K, on behalf of the Liver Cancer Study Group of Japan	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	JSH consensus-based clinical practice guidelines for the management of hepatocellular carcinoma: 2014 update by the Liver Cancer Study Group of Japan	Liver Cancer 3:458-468, 2014
45	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of	Emerging strategies for the management of hepatocellular carcinoma	Digest Dis 32:655-657, 2014
46	Nishida N, Nishimura T, Nakai T, Chishina H, Arizumi T, Takita M, Kitai S, Yada N, Hagiwara S, Inoue T, Minami Y, Ueshima K, Sakurai T, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Genome-wide profiling of DNA methylation and tumor progression in human hepatocellular carcinoma	Digest Dis 32:658-663, 2014
47	Minami Y, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Ultrasound fusion imaging of hepatocellular carcinoma: a review of current evidence	Digest Dis 32:690-695, 2014

48	Arizumi T, Ueshima K, Chishina H, Kono M, Takita M, Kitai S, Inoue T, Yada N, Hagiwara S, Minami Y, Sakurai T, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Duration of stable disease is associated with overall survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma treated with sorafenib	Digest Dis 32:705-710, 2014
49	Kitai S, Kudo M, Izumi N, Kaneko S, Ku Y, Kokudo N, Sakamoto M, Takayama T, Nakashima O, Kadoya M, Matsuyama Y, Matsunaga T, for the Liver Cancer Study Group of Japan	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Validation of three staging systems for hepatocellular carcinoma (JIS score, biomarker-combined JIS score, and BCLC system) in 4,649 cases from a Japanese nationwide survey	Digest Dis 32:717-724, 2014
50	Arizumi T, Ueshima K, Chishina H, Kono M, Takita M, Kitai S, Inoue T, Yada N, Hagiwara S, Minami Y, Sakurai T, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Decreased blood flow after sorafenib administration is an imaging biomarker to predict overall survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma	Digest Dis 32:733-739, 2014
51	Nishida N, Chishina H, Arizumi T, Takita M, Kitai S, Yada N, Hagiwara S, Inoue T, Minami Y, Ueshima K, Sakurai T, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Identification of epigenetically inactivated genes in human hepatocellular carcinoma by integrative analyses of methylation profiling and pharmacological unmasking	Digest Dis 32:740-746, 2014
52	Kudo M, Matsui O, Izumi N, Kadoya M, Okusaka T, Miyayama S, Yamakado K, Tsuchiya K, Ueshima K, Hiraoka A, Ikeda M, Ogasawara S, Yamashita T, Minami T, on behalf of the Liver Cancer Study Group of Japan	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Transarterial chemoembolization failure/refractoriness: JSH-LCSGJ criteria 2014 update	Oncology 87:22-31, 2014
53	Arizumi T, Ueshima K, Chishina H, Kono M, Takita M, Kitai S, Inoue T, Yada N, Hagiwara S, Minami Y, Sakurai T, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Validation of the criteria of transcatheter arterial chemoembolization failure or refractoriness in patients with advanced hepatocellular carcinoma proposed by LCSGJ	Oncology 87:32-36, 2014
54	Minami T, Minami Y, Chishina H, Arizumi T, Takita M, Kitai S, Yada N, Inoue T, Hagiwara S, Ueshima K, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Combination guidance of contrast-enhanced US and fusion imaging in radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma with poor conspicuity on contrast-enhanced US/fusion imaging	Oncology 87:55-62, 2014
55	Yada N, Kudo M, Kawada N, Sato S, Osaki Y, Ishikawa A, Miyoshi H, Sakamoto M, Kage M, Nakashima O, Tonomura A	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Noninvasive diagnosis of liver fibrosis: utility of data mining of both ultrasound elastography and serological findings to construct a decision tree	Oncology 87:63-72, 2014
56	Yada N, Sakurai T, Minami T, Arizumi T, Takita M, Inoue T, Hagiwara S, Ueshima K, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Ultrasound elastography correlates treatment response by antiviral therapy in patients with chronic hepatitis C	Oncology 87:118-123, 2014

57	Kudo M, Han G, Finn RS, Poon RTP, Blanc JF, Yan L, Yang J, Lu L, Tak WY, Yu X, Lee JH, Lin SM, Wu C, Tanwandee T, Shao G, Walters IB, Cruz CD, poullart V, Wang JH	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Brivanib as adjuvant therapy to transarterial chemoembolization in patients with hepatocellular carcinoma: a randomized phase 3 trial	Hepatology 60:1697-1707, 2014
58	Sakurai T, Kashida H, Watanabe T, Hagiwara S, Mizushima T, Iijima H, Nishida N, Higashitsuji H, Fujita J, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Stress response protein Cirp links inflammation and tumorigenesis in colitis-associated cancer	Cancer Res 74:6119-6128, 2014
59	Arizumi T, Ueshima K, Takeda H, Osaki Y, Takita M, Inoue T, Kitai S, Yada N, Hagiwara S, Minami Y, Sakurai T, Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Comparison of systems for assessment of post-therapeutic response to sorafenib for hepatocellular carcinoma	J Gastroenterol 49:1578-1587, 2014
60	Adachi T, Sakurai T, Kashida H, Mine H, Hagiwara S, Matsui S, Yoshida K, Nishida N, Watanabe T, Itoh K, Fujita J, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Involvement of heat shock protein A4/Apg-2 in refractory inflammatory bowel disease	Inflamm Bowel Dis 21:31-39, 2015
61	Kitano M, Kamata K, Imai H, Miyata T, Yasukawa S, Yanagisawa A, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Contrast-enhanced harmonic endoscopic ultrasonography for pancreatobiliary diseases	Digest Endosc 27:60-67, 2015
62	Sakurai T, Yada N, Watanabe T, Arizumi T, Hagiwara S, Ueshima K, Nishida N, Fujita J, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Cold-inducible RNA-binding protein promotes the development of liver cancer	Cancer Sci 106:352-358, 2015
63	安田 卓司	外科学 (上部消化管)	Systemic control and evaluation of the response to neoadjuvant chemotherapy in resectable thoracic esophageal squamous cell carcinoma with 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography -positive lymph	Surg Today/45・3/335-345/2015 Mar
64	牧野 知紀	外科学 (上部消化管)	A newly modified esophagogastrostomy with a reliable angle of His by placing a gastric tube in the lower mediastinum in laparoscopy-assisted proximal gastrectomy.	J Thorac Cardiovasc Surg/148・5/e211-212/2014 Nov
65	曾我部 俊介	外科学 (上部消化管)	MEK Inhibitor for Gastric Cancer with MEK1 Gene Mutations.	Mol Cancer Ther/13・12/3098-3106/2014 Dec
66	小川 達也	心臓血管外科	Surgical repair of an acute Stanford type A dissection in a patient with retrosternal gastric tube	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery; 46:132-133,2014
67	松岡 弘道	腫瘍内科部門 心療内科分野	Chemotherapeutic drugs that penetrate the blood-brain barrier affect the development of hyperactive delirium in cancer patients	Palliative Support Care/26/P.1-6/2014年6月

68	Mitsui Yoshiyuki	Department of Neurology, Kinki University Faculty of Medicine.	the Japanese GBS Study Group. A multicenter prospective study of Guillain-Barré syndrome in Japan: a focus on the incidence of subtypes.	J Neurol Neurosurg Psychiatry /86/110-114/2015
69	Hirano Makito	Department of Neurology, Sakai Hospital, Kinki University Faculty of Medicine	VCP gene analysis in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis identify a new mutation.	Neurobiol Aging/36/ 1604.e1-1604.e6/2015
70	Hamada Yukihiro	Department of Neurology, Kinki University Faculty of Medicine.	Binding specificity of anti-HNK-1 IgM M-protein in anti-MAG neuropathy: Possible clinical relevance.	Neurosci Res /91/ 63-68/2015
71	Saigoh Kazumasa	Department of Neurology, Kinki University Faculty of Medicine.	The first Japanese familial case of spinocerebellar ataxia 23 with a novel mutation in the PDYN gene.	Parkinsonism Relat Disord/21/ 332-334/2015
72	Kusunoki Susumu	Department of Neurology, Kinki University Faculty of Medicine.	How is the blood-nerve barrier involved in the pathogenetic mechanisms of multifocal motor neuropathy?	J Neurol Neurosurg Psychiatry/85/ 473/2014
73	Kusunoki Susumu	Department of Neurology, Kinki University Faculty of Medicine.	Autoantibodies in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: Specificities and clinical relevance.	Clin Exp Neuroimmunol /5/ 8-9/2014
74	墳本 一郎	整形外科学	Expressions of local renin-angiotensin system components in chondrocytes.	Eur J Histochem. Apr 23;58(2):2387.2014.
75	池田 光正	整形外科学	Effects of alendronate or alfacalcidol on bone metabolic indices and bone mineral density in patients with ophthalmologic disease treated with glucocorticoid.	Mod Rheumatol. Jul;24(4):671-6. 2014.
76	朝田 滋貴	整形外科学	Comparison of MRI- and CT-based patient-specific guides for total knee arthroplasty.	Knee. Dec;21(6):1238-43. 2014.
77	武田 卓	東洋医学研究所	Premenstrual Syndrome and Premenstrual Dysphoric Disorder in Japanese Collegiate Athletes.	Journal of pediatric and adolescent gynecology 28(4) 215-218 2014
78	馬場谷 成	内分泌・代謝・糖尿病内科	Genetic dissection of susceptibility genes for diabetes and related phenotypes on mouse chromosome 14 by means of congenic strains	BMC Genetics/2014/ 1-10/2014
79	Nakano N, Fukawa N, Nakagawa N, Nakanishi K, Tsuji K, Yabuuchi T, Iwakura N, Kato A	Department of Neurosurgery, Kinki University Faculty of Medicine	Endovascular microcatheter provocation test for the diagnosis of glossopharyngeal neuralgia.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg/75/350-353/2014 DOI:10.1055/s-0033-1343983
80	Okuda T, Fujita M, Yoshioka H, Tasaki T, Kato A	Department of Neurosurgery, Kinki University Faculty of Medicine	Novel surgical technique to solidify cyst-type metastatic brain tumors using autologous fibrin glue for complete resection.	Surg Neurol Int/5/100-100/2014 DOI:10.4103/2152-7806.135304

81	Tsuji K, Nakagawa N, Fukawa N, Kato A	Department of Neurosurgery, Kinki University Faculty of Medicine	Spontaneous closure of a dural arteriovenous fistula immediately after cerebral angiography using a gadolinium contrast agent.	J Stroke/Cerebrovasc Dis/23/e449-e452/2014 DOI:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2014.06.019
82	Okuda T, Yamashita J, Fujita M, Yoshioka H, Tsaka T, Kato A	Department of Neurosurgery, Kinki University Faculty of Medicine	The chicken egg and skull model of endoscopic endonasal transsphenoidal surgery improves trainee drilling skills.	Acta Neurochir (Wien)/156/1403-1407/2014 DOI:10.1007/s00701-014-2035-7
83	Okuda T, Hayashi H, Fujita M, Yoshioka H, Tasaki T, Nakagawa K, Kato A	Department of Neurosurgery, Kinki University Faculty of Medicine	Administration of gefitinib via nasogastric tube effectively improved the performance status of a patient with lung adenocarcinoma-derived meningeal carcinomatosis.	Int Canc Conf J/3/211-214/2014 DOI:10.1007/s13691-013-0148-0
84	Takafumi Minami, Tomoko Minami, Nobutaka Shimizu, Yutaka Yamamoto, Marco De Velasco, Masahiro Nozawa, Kazuhiro Yoshimura, Nanae Harashima, Mamoru Harada, Hirotsugu Uemura.	Department of Urology, Kinki University School of Medicine Department of Immunology, Shimane University School of Medicine	Identification of erythropoietin receptor-derived peptides having the potential to induce cancer-reactive cytotoxic T lymphocytes from HLA-A24+ patients with renal cell carcinoma ☆	International Immunopharmacology 20 (2014) 59-65
85	石川 一樹	放射線腫瘍学部門	Clinical results of definitive-dose (50 Gy/25 fractions) preoperative chemo-radiotherapy for unresectable esophageal cancer.	Int J Clin Oncol 20:531-537. 2015
86	西村 恭昌	放射線腫瘍学部門	Clinical outcomes of radiotherapy for esophageal cancer between 2004 and 2008: the second survey of the Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG).	Int J Clin Oncol. 2015 [Epub ahead of print]
87	岡本 邦男	腫瘍内科	A Phase I study of split-dose cisplatin and etoposide with concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy in elderly patients with limited-disease small cell lung cancer.	Jpn J Clin Oncol 44: 743-748, 2014
88	鶴崎 正勝	高度先端総合医療センターPET分子イメージング部門	Comparison of gadoteric acid-enhanced magnetic resonance imaging and contrast-enhanced computed tomography with histopathological examinations for the identification of hepatocellular carcinoma: a multicenter phase III study.	J Gastroenterol. 2015 Jul 1.
89	村上 卓道	放射線診断学部門	Clinical utility of imaging for evaluation of hepatocellular carcinoma	Journal of Hepatocellular Carcinoma 1:101-108. 2014
90	村上 卓道	放射線診断学部門	Hypervascular benign and malignant liver tumors that require differentiation from hepatocellular carcinoma: key points of imaging diagnosis.	Liver Cancer. 3(2):85-96.2014
91	柳生 行伸	放射線診断学部門	Feasible and technical aspects of transcatheter arterial chemoembolization for non-resectable hepatocellular carcinoma using a 3.5-French catheter system.	Abdom Imaging. 39(6):1304-1308.2014
92	石井 一成	早期認知症センター	Computer-assisted system for diagnosing degenerative dementia using cerebral blood flow SPECT and 3D-SSP:a multicenter study.	Jpa J Radiol. 32:383-390.2014

93	石井 一成	早期認知症センター	KET Approaches for Diagnosis of Dementia.	Am J Neuroradiol. 35:2030-2038. 2014
94	祖父江 慶太郎	神戸大学放射線科	Does Gadoxetic acid-enhanced 3.0T MRI in addition to 64-detector-row contrast-enhanced CT provide better diagnostic performance and change the therapeutic strategy for the preoperative evaluation of colorectal liver metastases?	Eur Radiol. 24(10):2532-2539. 2014
95	高橋 洋人	放射線診断学部門	Clinical application of 3D arterial spin-labeled brain perfusion imaging for Alzheimer disease: Comparison with brain perfusion SPECT.	AJNR. 35(5):906-911. 2014
96	大濱 日出子	市立池田病院消化器内科	Images of Sonazoid-enhanced ultrasonography in multistep hepatocarcinogenesis: comparison with Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI.	J Gastroenterol. 49(6):1081-1093. 2014
97	南 康範	消化器内科	Tracking Nacigation Imaging of Transcatheter Arterial Chemoembolization for Hepatocellular Carcinoma Using Three-Dimensional Cone-Beam CT Angiography.	Liver Cancer. 3(1):53-61.2014
98	高橋 洋人	放射線診断学部門	Can Low-dose CT with Iterative Reconstruction Reduce Both the Radiation Dose and the Amount of Iodine Contrast Medium in a Dynamic CT Study of the Liver?	Eur Radiol. 83(4):684-691. 2014
99	足利 竜一朗	放射線診断学部門	MR imaging of hydrogel scleral buckle as a late complication after retinal detachment surgery.	Acta Med Kinki Univ.38(2):111-113. 2014
100	鎌田 研	消化器内科	Value of EUS in early detection of pancreatic ductal adenocarcinomas in patients with intraductal papillary mucinous neoplasms.	Endoscopy. 46(1):22-29. 2014
101	鶴崎 正勝	高度先端総合医療センターPET分子イメージング部門	Clinical application of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography for assessment and evaluation after therapy for malignant hepatic tumor.	J Gastroenterol. 49(1):46-56. 2014
102	石井 一成	早期認知症センター	Regional glucose metabolic reduction in dementia with Lewy bodies is independent of amyloid deposition.	Ann Nucl Med. 29(1):78-83. 2015
103	細川 知紗	高度先端総合医療センターPET分子イメージング部門	Investigation of 11C-PiB equivocal PET findings.	Ann Nucl Med. 29(2):164-169. 2015
104	高井 規子	麻酔科	Fatal pulmonary embolism following spinal surgery in a patient with permanent inferior vena cave filter placement.	J Anesth/28/606-609-2014
105	岩元 辰篤	麻酔科	Improvement of NMDA encephalitis by active lymphnode removal	J Anesth/28/646/2014
106	上裕 俊法	臨床検査医学	Role of Nrf2 in the alteration of cholesterol and bile acid metabolism -related gene expression by dietary cholesterol in high fat-fed mice.	J Clin Biochem Nutr 54:90-4.2014
107	Hayashi H, Arao T, Matsumoto K, Kimura H, Togashi Y, Hirashima Y, Horita Y, Iwasa S, Okita NT, Honma Y, Takashima A, Kato K, Hamaguchi T, Shimada Y, Nakagawa K, Nishio K, Yamada Y.	腫瘍内科	Biomarkers of reactive resistance and early disease progression during chemotherapy plus bevacizumab treatment for colorectal carcinoma.	Oncotarget. 5(9) 2588-95, 2014

108	Okamoto K, Okamoto I, Takeda M, Kobayashi S, Takeda K, Nakamatsu K, Nishimura Y, Nakagawa K.	腫瘍内科	A phase I study of split-dose cisplatin and etoposide with concurrent accelerated hyperfractionated thoracic radiotherapy in elderly patients with limited-disease small cell lung cancer.	Jpn J Clin Oncol. 44(8)743-8. 2014
109	Yoshida T, Zhang G, Smith MA, Lopez AS, Bai Y, Li J, Fang B, Koomen J, Rawal B, Fisher KJ, Chen AY, Kitano M, Morita Y, Yamaguchi H, Shibata K, Okabe T, Okamoto I, Nakagawa K, Haura EB.	腫瘍内科	Tyrosine phosphoproteomics identifies both codrivers and cotargeting strategies for T790M-related EGFR-TKI resistance in non-small cell lung cancer.	Clin Cancer Res. 20(15)4059-74. 2014
110	Kawakami H, Okamoto I, Okamoto W, Tanizaki J, Nakagawa K, Nishio K.	腫瘍内科	Targeting MET Amplification as a New Oncogenic Driver.	Cancers (Basel). 6(3)1540-52. 2014
111	Hayashi H, Okamoto I, Tanizaki J, Tanaka K, Okuda T, Kato A, Nishimura Y, Nakagawa K.	腫瘍内科	Cystic Brain Metastasis in Non-Small-Cell Lung Cancer With ALK Rearrangement.	J Clin Oncol. 32(36)e122-4. 2014
112	Kawakami H, Okamoto I, Yonesaka K, Okamoto K, Shibata K, Shinkai Y, Sakamoto H, Kitano M, Tamura T, Nishio K, Nakagawa K.	腫瘍内科	The anti-HER3 antibody patritumab abrogates cetuximab resistance mediated by heregulin in colorectal cancer cells.	Oncotarget. 5(23)11847-56. 2014
113	Yonesaka K, Satoh T, Ueda S, Yoshida T, Takeda M, Shimizu T, Okamoto I, Nishio K, Tamura T, Nakagawa K.	腫瘍内科	Circulating hepatocyte growth factor is correlated with resistance to cetuximab in metastatic colorectal cancer.	Anticancer Res. 35(3)1683-9. 2015
114	Sakiyama T, Tsurutani J, Iwasa T, Kawakami H, Nonagase Y, Yoshida T, Tanaka K, Fujisaka Y, Kurata T, Komoike Y, Nishio K, Nakagawa K.	腫瘍内科	A phase I dose-escalation study of eribulin and S-1 for metastatic breast cancer.	Br J Cancer. 112(5)819-24.
115	Takahama T, Takeda M, Nishina S, Nakagawa K.	腫瘍内科	A case of severe cerebral embolism after chemotherapy for HER2-positive gastric cancer.	BMC Res Notes. 8:100, 1-3, 2015
116	榎本 明史	歯科口腔外科	Tongue cancer with mental retardation due to microcephaly: a clinical report	World Journal of Surgical Oncology 07/2015; 13(1):216.

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名/巻数・号数/ 該当ページ/出版年
1	西内 辰也	救急医学	Epidemiological characteristics of sudden cardiac arrest in schools.	Resuscitation 2014;85:1001-6.
2	Nozaki, Y. ¹ , Kitching AR ² , Akiba H ³ , Yagita H ³ , Kinoshita K ⁴ , Funouchi M ¹ , Matsumura I ¹ .	Division of Hemeatology & Rheumatology, Department of Internal Medicine, Kindai University Faculty of Medicine ¹ , Faculty of Medicine, Nursing & Health Sciences Monash University, Clayton ² , Department of Immunology, Juntendo University Hospital ³ , Division of Rheumatology, Kindai Unoversity Sakai Hospital ⁴	Endogenous Tim-1 promotes severe systemic autoimmunity and renal disease MRL-Fas(lpr) mice.	Am J Physiol Renal Physiol. 306(10):F1210-21, 2014.
3	Nozaki Y ¹ , Kinoshita K ² , Yano T ¹ , Shiga T ¹ , Hino S ¹ , Niki K ¹ , Kishimoto K ¹ , Funouchi M ¹ , Matsumura I ¹ .	Division of Hemeatology & Rheumatology, Department of Internal Medicine, Kindai University Faculty of Medicine ¹ , Division of Rheumatology, Kindai Unoversity Sakai Hospital ²	Estimation of kidney injury molecule-1 (Kim-1) in patients with lupus nephritis.	Lupus. 23(8):769-77, 2014.
4	浮田 真沙世	産科婦人科学	Long-term survival in metastatic malignant struma ovarii treated with oral chemotherapy: A case report	Oncology letters/8・6/2458-2462/2014
5	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科	難治性良性発作性頭位めまい症の外科的療法	耳鼻咽喉科臨床 108: 264-265. 2015
6	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科	良性発作性頭位めまい症の外科的療法	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 86:1004-1008.2014
7	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科	前庭誘発筋電位 (VEMP)	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 86: 726-733. 2014
8	瀬尾 徹	耳鼻咽喉科	前庭障害を疑うが温度眼振検査では正常だった。前庭機能障害はないのか？	JOHNS 30:1159-1161. 2014

9	Yanagida H, Tabata N, Sugimoto K, Izu A, Wada N, Sakata N, Okada M, Takemura T.	Department of Pediatrics, Kinki University Faculty of Medicine	Non-invasive renal artery embolization for renal dysplasia accompanied by hypertension.	Pediatr Int. 2014 Feb;56(1):107-9. doi: 10.1111/ped.12226
10	Murakami K, Habukawa C, Kurosawa H, Takemura T.	Department of Pediatrics, Kinki University Sakai Hospital	Evaluation of airway responsiveness using colored three-dimensional analyses of a new forced oscillation technique in controlled asthmatic and nonasthmatic children.	Respir Investig. 2014 Jan;52(1):57-64. doi: 10.1016/j.resinv.2013.07.003. Epub 2013 Sep 24.
11	Kitano M, Kamata K, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Reply to Kadayifci and brugge	Endoscopy 46:358, 2014
12	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Biomarkers and personalized sorafenib therapy	Liver Cancer 3:399-404, 2014
13	Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Alteration of epigenetic profile in human hepatocellular carcinoma and its clinical implications	Liver Cancer 3:417-427, 2014
14	Nishida N, Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Clinical features of vascular disorders associated with chronic hepatitis virus infection	Digest Dis 32:786-790, 2014
15	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Breakthroughs in the management of hepatocellular carcinoma: celebrating 50 years of the Liver Cancer Study Group of Japan	Oncology 87:1-6, 2014
16	Kudo M, Matsui O, Izumi N, Iijima H, Kadoya M, Imai Y, on behalf of the Liver Cancer Study Group of Japan	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Surveillance and diagnostic algorithm for hepatocellular carcinoma proposed by the Liver Cancer Study Group of Japan: 2014 update	Oncology 87:7-21, 2014
17	Takita M, Hagiwara S, Kudo M, Kono M, Chishina H, Arizumi T, Kitai S, Yada N, Inoue T, Minami Y, Ueshima	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Efficacy and safety of Telaprevir-based antiviral treatment for elderly patients with hepatitis C virus	Oncology 87:110-117, 2014
18	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Malignant transformation of hepatocellular adenoma: How frequently does it happen?	Liver Cancer 1:1-5, 2015
19	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Surveillance, diagnosis, treatment, and outcome of liver cancer in Japan	Liver Cancer 4:39-50, 2015
20	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Clinical practice guidelines for hepatocellular carcinoma differ between Japan, United States, and Europe	Liver Cancer 4:85-95, 2015
21	Kudo M	Dept. Gastroenterology and Hepatology Kinki University School of Medicine	Foreword to the WFUMB guideline and recommendations on the clinical use of ultrasound elastography	Ultrasound Med Biol 41:1125, 2015
22	酒井 清裕	腫瘍内科部門 心療内科分野	易疲労感・食欲不振などの症状からうつ病を疑われて紹介となったACTH単独欠損症の1例	日本心身医学会/55巻3号/261-268/2015年3月

23	小山 敦子	腫瘍内科部門 心療内科分野	【特集 がん患者の訴える諸症状と支持療法】 うつ・適応障害	臨床腫瘍プラクティス(ヴァンメディカル) /10巻3号/314-316/2014年8月
24	松岡 弘道	腫瘍内科部門 心療内科分野	【特集 がん患者の訴える諸症状と支持療法】 せん妄	臨床腫瘍プラクティス(ヴァンメディカル) 10 巻3号/317-320/2014年8月
25	酒井 清裕	腫瘍内科部門 心療内科分野	【特集 がん患者の訴える諸症状と支持療法】 倦怠感	臨床腫瘍プラクティス(ヴァンメディカル) /10巻3号/311-313/2014年8月
26	阪本 亮	腫瘍内科部門 心療内科分野	緩和医療と心身医学	日本心療内科学会誌/18(2)/24-29/2014 年5月
27	加藤 茉里	神経内科	抗AChR抗体陽性重症筋無力症の急性増悪 期治療－血液浄化療法と免疫グロブリン大量 療法の比較－	神経治療学/31/37-42/ 2014
28	小川 郁子	神経内科	パーキンソン病における酸化DJ-1測定のバイ オマーカーとしての意義の検討	Brain and Nerve/ 66/ 471-477/ 2014
29	鈴木 秀和	神経内科	神経免疫疾患と自己抗体	炎症と免疫/22/54-61/ 2014
30	桑原 基	神経内科	内科疾患最新の治療、Guillain-Barré症候群	内科/113/ 1402-1403/ 2014
31	柿木 良介	整形外科学	腕神経叢損傷患者にたいする交差神経移行 術後の脳可塑性	末梢神経(0917-6772)25巻2号 Page248- 252(2014.12)
32	朝田 滋貴	整形外科学	人工膝関節再置換術の工夫 骨欠損への対 応と工夫	Bone Joint Nerve(2186-1110)5巻1号 Page189-193(2015.01)
33	池田 光正	整形外科学	骨粗鬆症性脊椎骨折に伴う脊柱アライメントの 検討	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443)58巻3号 Page487- 488(2015.05)
34	森 成志	整形外科学	関節リウマチに対する人工膝関節	リウマチ科(0915-227X)51巻6号 Page642- 649(2014.06)
35	西村 俊司	整形外科学	癌腫と診断された軟部腫瘍の症例検討	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443)57巻3号 Page639- 640(2014.05)
36	橋本 和喜	整形外科学	深部静脈血栓症の治療ケーススタディー 脊 椎手術後の患者の場合	整形外科看護(1342-4718)19巻7号 Page700-703(2014.07)
37	井上 紳司	整形外科学	アキレス腱断裂術後装具療法の有用性	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 (0008-9443)57巻3号 Page573- 574(2014.05)
38	橋本 和彦	整形外科学	Vocabulary LOX-1	整形外科(0030-5901)66巻3号 Page240(2015.03)

39	Komoike Y, Inokuchi M, Itoh T, Kitamura K, Kutomi G, Sakai T, Jinno H, Wada N, Ohsumi S, Mukai H.	Department of Surgery, Kinki University Faculty of Medicine, Department of Breast Oncology, Kanazawa University Hospital, Department of Surgery, Rinku General Medical Center, Department of Breast Surgery, Nagumo Clinic Fukuoka, Department of Surgery, Surgical Oncology and Science, Sapporo Medical University Hospital, Breast Oncology Center, Cancer Institute Hospital of the Japanese Foundation for Cancer Research, Department of Surgery, Keio University School of Medicine, Department of Breast Surgery, National Cancer Center Hospital East, Department of Breast Oncology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, Department of Medical Oncology, National Cancer Center Hospital East	Japan Breast Cancer Society clinical practice guideline for surgical treatment of breast cancer.	Breast Cancer. 22(1):37-48. Epub 2014 Aug 5
40	佐藤雅子	皮膚科	Mucosal dominant-type pemphigus vulgaris associated with gastrointestinal stromal tumor	Eur J Dermatol 24 (4): 494-495, 2014
41	大磯直毅	皮膚科	Follicular mucinous nevus: a possible new variant of mucinous nevus	Journal of the American Academy of Dermatology 71 (4): e141-e142, 2014
42	大磯直毅	皮膚科	Biopsy-proven pigmented poroma with no vascular structure in dermoscopy	Int J Dermatol 53: e334-e335, 2014
43	大磯直毅	皮膚科	Nevus depigmentosus with pale skin, yellow-brown hair and a light brown iris	Eur J Dermatol 24 (4): 507-508, 2014
44	加藤 麻衣子	皮膚科	Necrobiosis lipoidica with infiltration of Th17 cells into vascular lesions	J Dermatol 41 (5): 459-461, 2014
45	吉岡 清行	麻酔科	質疑応答「レミフェンタニルはMTSを引き起こしやすいか？」	臨床麻酔/789-791/2014
46	北浦 淳寛	麻酔科	動脈塞栓除去カテーテルを用いた乳児一側気管支ブロック症例	麻酔と蘇生/50/73-75/2014
47	古垣内 美智子	中央臨床検査部	血液培養から分離されPenicillinGに高度耐性かつ多剤耐性を示したGranulicatella adiacensの一例	日本臨床微生物雑誌 24: 138-145; 2014
48	井本 真由美	中央臨床検査部	尿蛋白試験紙にBence Jonesタンパクが反応することの検証	臨床化学 43:217-225,2014.

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 ヘルシンキ宣言の倫理的原則に則り、指針に基づき、医学部等で行われる人を対象とした医学系研究が倫理的配慮のもとに行われることを目的として、倫理委員会・遺伝子倫理委員会審査における運営に関する手順を定める。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 近畿大学利益相反マネジメント規定 この規定は、近畿大学における利益相反マネジメントに関し必要な事項を定め、産官学連携の健全な推進と、本学並びに本学教職員が産官学連携活動に取り組むための環境整備に資することを目的とする。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 研究倫理の基礎知識 平成 27 年 5 月 29 日 研究倫理の基礎知識 その 2 平成 27 年 7 月 31 日 失敗例に学ぶ生物統計学 平成27年9月16日	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

近畿大学医学部附属病院における認定医・専門医育成プログラムでは、内科、外科、その他の専門家の認定医・専門医取得を第一目標に定めている。それと同時に2年間の卒後臨床研修で最終目標に定め修得していたプライマリ・ケアの幅と奥行きを深めるために多くの関連病院での研修も含めたカリキュラムを用意している。

2 研修の実績

研修医の人数	130.92 人
--------	----------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮崎 俊一	循環器内科	教授	35年	
池上 博司	内分泌・代謝・糖尿病内科	教授	33年	
工藤 正俊	消化器内科	教授	36年	
松村 到	血液・膠原病内科 (血液)	教授	30年	
船内 正憲	血液・膠原病内科 (膠原病)	教授	34年	
楠 進	神経内科	教授	36年	
中川 和彦	腫瘍内科	教授	31年	
小山 敦子	心療内科	教授	30年	
東田 有智	呼吸器・アレルギー内科	教授	34年	
有馬 秀二	腎臓内科	教授	23年	
白川 治	メンタルヘルス科	教授	34年	
武村 司	小児科	教授	32年	
奥野 清隆	外科	教授	37年	
加藤 天美	脳神経外科	教授	35年	
佐賀 俊彦	心臓血管外科	教授	36年	
赤木 将男	整形外科	教授	31年	
福田 寛二	リハビリテーション科	教授	33年	
川田 暁	皮膚科	教授	35年	
磯貝 典孝	形成外科	教授	32年	
植村 天受	泌尿器科	教授	31年	
下村 嘉一	眼科	教授	37年	
土井 勝美	耳鼻咽喉科	教授	33年	
万代 昌紀	産婦人科	教授	30年	
西村 恭昌	放射線科・放射線腫瘍学部門 (放射線治療科)	教授	33年	
村上 卓道	放射線科診断学部門	教授	28年	
中尾 慎一	麻酔科	教授	33年	
上裕 俊法	臨床検査医学	教授	29年	
平出 敦	救急総合診療センター (ER)	教授	33年	
村尾 佳則	救命救急センター	准教授	35年	
大槻 俊輔	脳卒中センター	教授	28年	
佐藤 隆夫	病院病理部	教授	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

① TeamSTEPPS (米国 AHRQ と国防総省との合同研究企画の結果生まれたチームの新しい活動の考え方・あり方の概要で、特にストレスの高い状況下で治療や看護を行う医療提供者によるチーム活動の進め方とトレーニング方法) 研修を全職員対象で実施。

② 医療機器研修を看護師・臨床工学技士対象で実施。

③ 診療放射線技師による放射線治療技術を中心とした英文書物、学術論文の抄読会の実施

④ 診療放射線技師、医学物理士を対象とした高度医療機器の安全取扱に関する研修の実施

・研修の期間・実施回数

① 毎月 1 回開催。全 37 回開催 (平成 27 年 8 月 22 日現在)。平成 26 年度は 12 回開催。全職員修了まで継続予定。

② 平成 26 年度は 141 回開催。

③ 2 回/月

④ 2 回/年

・研修の参加人数

② 2700 人が参加 (平成 27 年 8 月 22 日現在)。平成 26 年度は 835 人 (毎月平均約 70 人) が参加。

② 平成 26 年度は 1344 人が参加。

③ 10 名

④ 10 名

別紙 (様式 4 - ①)

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修の実施状況

1) 放射線科医師、医学物理士、診療放射線技師、看護師による放射線治療合同カンファレンスの実施

2) 診療放射線技師、医学物理士、看護師による、始業前ミーティングの実施

3) 医学物理士、診療放射線技師による高精度放射線治療機器の QA、QC 実施結果

の報告、研修の実施

・研修の期間・実施回数

1) 1回/週

2) 1回/日

3) 1回/週

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

① TeamSTEPPS研修で他施設参加者の受入。

② 南大阪地域内での医療安全情報共有を目的とし、南大阪医療安全ネットワークを設立。会員施設対象に定期的に研修会を開催。

・研修の期間・実施回数

① 毎月1回開催。全37回開催(平成27年8月22日現在)。平成26年度は12回開催。

② 平成26年度は年間4回開催。

・研修の参加人数

① 平成26年度は他施設より46人(毎月平均約4人)が参加。

② 毎回平均約50人が参加。

平成27年度院内研修会

看護実践能力到達段階別研修

I

研修テーマ	研修日時	研修内容	講師・担当者
1ヶ月研修 ・医療用ポンプ 103名	平成26年4月21日(月) 13:30 ~ 17:00 平成26年4月26日(土) 8:30 ~ 12:00 平成26年4月28日(月) 13:30 ~ 17:00	【目的】 医療用ポンプ:医療用ポンプの機能・特徴・操作方法を理解できる 【目標】 1ヶ月:働きはじめてからの戸惑いについて互いに話し合うことができる 医療用ポンプ:医療用ポンプの機能・特徴を理解する 医療用ポンプを正しい手順で操作できる	新人研修責任者 臨床工学士 看護教育委員会
心電図(基礎) 102名	平成26年5月26日(月) 15:00 ~ 16:30 平成26年5月29日(木) 15:00 ~ 16:30 平成26年5月31日(土) 10:00 ~ 11:30	【目的】 基本的な心臓のメカニズムをふまえ、心電図の基本を理解する 【目標】 心電図の働きが理解できる、正常洞調律を理解できる	慢性心不全看護 認定看護師 加藤 恵子 看護教育委員会
3ヶ月研修 100名	平成26年6月23日(月) 13:30 ~ 17:00 平成26年6月27日(金) 13:30 ~ 17:00 平成26年6月30日(月) 13:30 ~ 17:00	【目的】 3ヶ月を振り返り、チームの一員としての役割を検討できる 【目標】 1 報告・連絡・相談の問題点について検討し、解決策を検討する 2 ストレスマネジメントの基礎を理解し、上手に付き合う方法を知る	臨床心理士 長谷川 百代 新人研修責任者 看護教育委員会
スキンケア・ 輸血療法 100名	平成26年7月14日(月) 13:30 ~ 17:00 平成26年7月25日(金) 13:30 ~ 17:00 平成26年7月30日(水) 13:30 ~ 17:00	【目的】 スキンケア:スキンケアの基礎について理解する 輸血療法:輸血療法の目的を理解し、管理方法・看護師の役割を理解する 【目標】 スキンケア:スキンケアの基礎を学び、スキントラブルの予防に活用する 輸血療法:1.血液製剤種類・取扱いを知り、正しい手順で実施できる 2.輸血作用、副作用を理解し、患者観察ができる	新人研修責任者 輸血部技師 看護教育委員会
救急看護処置 技術 100名	平成26年8月22日(金) 9:00 ~ 12:00 平成26年8月25日(月) 9:00 ~ 16:30 平成26年8月27日(水) 9:00 ~ 16:30 平成26年8月30日(土) 9:00 ~ 12:00 平成26年9月19日(金) 9:00 ~ 12:00 平成26年9月22日(月) 9:00 ~ 12:00 平成26年10月15日(水) 9:00 ~ 12:00	【目的】 救命救急処置を理解し、蘇生技術を習得する 【目標】 1 蘇生法が理解でき、実施できる 2 安全にAEDを使用できる 3 期間挿管の準備と介助が実施できる	集中ケア認定看護師 神谷 健司 救急看護認定看護師 西 有未 看護教育委員会
6ヶ月研修・ がん看護 98名	平成26年9月24日(水) 13:30 ~ 17:00 平成26年9月25日(木) 13:30 ~ 17:00 平成26年9月29日(月) 13:30 ~ 17:00	【目的】 6ヶ月: 自己の看護実践を振り返り、解決策を見出す がん看護: がん拠点病院としての役割について学ぶ 【目標】 6ヶ月:KPTシートを用いて、自己の看護を振り返り、解決策を検討する がん看護:がん治療を受ける患者を支援するために必要な知識について学ぶ	がん看護専門看護師 小山 富美子 がん看護専門看護師 長尾 充子 看護教育委員会
医療機器・ 人工呼吸器 98名	平成26年10月6日(月) 13:30 ~ 17:00 平成26年10月20日(月) 13:30 ~ 17:00 平成26年10月30日(木) 13:30 ~ 17:00	【目的】 人工呼吸器の機能について理解できる 【目標】 自然呼吸と人工呼吸の違いを理解し、人工呼吸の機能を理解する	臨床工学士 集中ケア認定看護師 下垣内 順子 看護教育委員会

防災災害対策・ 看護過程	平成26年11月10日(月) 13:30 ~ 17:00 平成26年11月14日(金) 13:30 ~ 17:00 平成26年11月26日(水) 13:30 ~ 17:00	【目的】 防災災害対策:災害拠点病院の役割を学ぶ 看護過程:看護過程を通じて自己の看護を振り返ることができる 【目標】 防災災害対策:災害拠点病院の役割を知る 看護過程:看護過程の基本と展開の方法を理解する ケースレポートの書き方を学ぶ	新人研修責任者 看護教育委員会
心電図(応用)	平成26年12月17日(水) 15:00 ~ 17:00 平成26年12月20日(土) 10:00 ~ 12:00 平成26年12月22日(月) 15:00 ~ 17:00	【目的】 危険な不整脈を理解し、対処方法を学ぶ 【目標】 1 血行動態の重篤な低下をまねく危険な不整脈を理解できる 2 不整脈出現時の対応を理解できる	慢性心不全看護 認定看護師 加藤 恵子 看護教育委員会
1年研修	平成27年2月23日(月) 13:30 ~ 17:00 平成27年2月26日(木) 13:00 ~ 17:00 平成27年2月28日(土) 8:30 ~ 12:00	【目的】 自分の成長を確認できる 【目標】 1年間を振り返り自己の課題を明確にできる 目標管理について理解できる	新人研修責任者 看護教育委員会
II			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
感染予防対策2 (経路別)	平成26年6月4日(水) 17:15 ~ 19:00 平成26年6月11日(水) 17:15 ~ 19:00	【目的】 エビデンスに基づく感染予防対策を理解し、実践できる 【目標】 感染の基礎知識・経路別感染予防策を理解する	感染管理認定看護師 三五 裕子 看護教育委員会
静脈注射実施者 育成	平成26年7月2日(水) 17:15 ~ 18:15 平成26年7月17日(木) 17:15 ~ 18:15 (口頭試問、実技テスト 5日間) 平成26年8月4日(月) 9:00 ~ 17:00 ~平成26年8月8日	【目的】 近畿大学医学部附属病院の看護師として、静脈注射実施 基準に則り、静脈注射が実施できる 【目標】 静脈注射を安全に実施するための知識・技術を学ぶ	静脈注射院内 認定看護師 藤山 たまき 看護教育委員会
看護研究1 (文献検索)	平成26年5月15日(木) 17:15 ~ 19:15	【目的】 看護研究を行うための文献検索を学ぶ 【目標】 文献検索の方法が理解できる	医学部図書館 吉富 啓子 看護教育委員会
看護研究2 (事例研究)	平成26年6月4日(水) 8:30 ~ 12:00 平成26年6月4日(水) 13:00 ~ 16:30 発表会 平成26年12月4日(木) 17:15 ~ 19:15 平成26年12月9日(火) 17:15 ~ 19:15	【目的】 看護実践に活かす看護研究の意義・研究に向かう姿勢 を理解し看護研究のプロセスを学ぶ 【目標】 看護研究の基礎知識を習得し、事例研究としてまとめる ことができる研究に必要な論文をよむことができる	摂南大学 看護学部 講師 森谷 利香 看護教育委員会
看護倫理2	平成26年7月9日(水) 17:15 ~ 18:45 平成26年8月6日(水) 17:15 ~ 18:45 平成26年8月21日(木) 17:15 ~ 18:45	【目的】 倫理的感受性(臨床倫理問題が生じていることに気 づく力)を維持することができる 倫理的推論(それが倫理的に問題であるか指摘すること)が できる 【目標】 医療倫理・看護倫理上の問題に気づくことができる	副看護部長 小山 富美子 看護長 長尾 充子 主任 藤野 崇 主任 河野 政子 主任 村上 香織 久光 由香 看護教育委員会
実地指導者育成	平成27年2月4日(水) 8:30 ~ 12:00	【目的】 新人看護職員臨床研修制度を理解し、実地指導者の 役割を理解する 【目標】 実地指導者の役割を理解し、行動できる	看護長 松林 輝代子 看護教育委員会

III			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
フィジカルアセスメント 64名 28名 27名 26名	平成26年5月28日(水) 17:15 ~ 18:45 平成26年6月10日(火) 8:30 ~ 16:30 平成26年7月8日(火) 9:00 ~ 17:00 平成26年8月12日(火) 8:30 ~ 12:00	【目的】 フィジカルアセスメントスキルについて学んだことを、 根拠に基づきアセスメントができる 【目標】 系統的フィジカルイグザミネーションについて学び、 フィジカルアセスメントスキルを身につける	急性・重症患者看護専門看護師 村上 香織 救急看護認定看護師 野見山 泰子 慢性心不全看護認定看護師 加藤 恵子 脳卒中リハビリ看護認定看護師 林 真由美 看護教育委員会
臨床指導者 28名 28名 28名	平成26年5月23日(金) 8:30 ~ 17:00 平成26年6月13日(金) 8:30 ~ 17:00 平成26年7月16日(水) 8:30 ~ 17:00	【目的】 実習指導者として効果的な関わりができる 【目標】 実習指導の基礎的な知識を理解し、効果的な指導者の あり方を学ぶ	近畿大学附属 看護専門学校 教員 片山 美子 看護教育委員会
リーダーシップ 51名	平成26年7月7日(月) 8:30 ~ 16:30	【目的】 チーム医療の中で看護師の役割を理解し、リーダーシップ を発揮することができる 【目標】 チームの中で自分の役割を理解し、リーダーシップが発揮 できる	関西国際大学 保健医療学部看護学科 准教授 青木 菜穂子 看護教育委員会
チームリーダー 31名	平成26年7月31日(木) 8:30 ~ 17:00	【目的】 チーム運営が円滑にできる 【目標】 チーム運営に責任を持ち、チームリーダーとして リーダーシップが発揮できる	大阪国際大学人間科学 心理コミュニケーション学科 教授 青野 明子 看護教育委員会
安全管理2 (危険予知 トレーニング) 38名	平成26年7月23日(水) 13:30 ~ 17:00	【目的】 安全管理上のリスクを軽減するための方法について 学ぶ事が出来る 【目標】 予測に基づいて適切な安全対策が実施できる	看護長 高野 桂三 看護教育委員会
看護研究3(統計) 49名	平成26年8月20日(水) 9:00 ~ 16:00	【目的】 看護研究方法(量的研究)について学び、看護研究 に適した分析を理解し研究に取り組むことが出来る 【目標】 看護研究に必要な統計の基礎知識を学ぶ	広島大学大学院 医歯薬保健学研究所 教授 祖父江 育子 看護教育委員会
看護研究4 (統計の処理の 実際) 16名	平成26年10月1日(水) 17:15 ~ 19:15	【目的】 看護研究方法(量的研究)について学び、看護研究に 適した分析を理解し研究に取り組むことが出来る 【目標】 看護研究に必要な統計の使い方を学ぶ	リハビリテーション部 技術係長 言語聴覚士 久保田 功 看護教育委員会
感染予防対策3 (血流感染・ 尿路感染) 51名	平成26年9月24日(水) 8:30 ~ 12:00	【目的】 エビデンスに基づく血流感染予防対策の実践を学ぶ 【目標】 1 血流感染の看護ケアにおける感染対策を学ぶ 2 尿路感染の看護ケアにおける感染対策を学ぶ	感染症看護専門看護師 久光 由香 看護教育委員会
感染予防対策4 (手術部位感染・ 人工呼吸器関連 感染) 38名	平成26年9月30日(火) 8:30 ~ 12:00	【目的】 エビデンスに基づく手術部位感染対策・人工呼吸器 関連感染の予防対策を理解し、実践できる 【目標】 エビデンスに基づく手術部位感染対策・人工呼吸器 関連感染の予防の実際を学ぶ	感染症看護専門看護師 久光 由香 看護教育委員会

看護倫理3 104名	平成26年10月10日(金) 17:15 ~ 18:45 平成26年10月22日(水) 17:15 ~ 18:45	【目的】 臨床場面における看護上の倫理的問題に対して 態度表明がとれる力を養う 【目標】 1 誰がどのような権利を優先すべきか、どのような立場 をとるべきか適切に判断できる 2 カンファレンスにおいて倫理的問題の解決の方向性を明確に することができる	副看護部長 小山 富美子 看護長 長尾 充子 主任 藤野 崇 主任 河野 政子 看護教育委員会
災害看護1 33名	平成26年10月17日(金) 13:30 ~ 17:00	【目的】 災害発生時の看護について理解し、災害時の看護に 活かすことができる 【目標】 防災・災害予防対策の基礎知識を学ぶ 災害発生時の院内で適切な対応を理解し、実践につなげる ことができる	内科外来 主任 倉又 佳代 看護教育委員会
災害看護2 32名	平成26年11月18日(火) 8:30 ~ 17:00	【目的】 災害発生時の看護について理解し、災害時の看護 に活かすことができる 【目標】 防災・災害予防対策の基礎知識を学ぶ	内科外来 主任 倉又 佳代 看護教育委員会
看護研究5 (プレゼンテー ション) 17名	平成26年11月13日(木) 9:00 ~ 12:00	【目的】 看護研究を発表するためのスキルを学ぶ 【目標】 1 学会抄録の書き方が分かる 2 効果的なプレゼンテーションが出来る	大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻 看護学専攻 准教授 伊藤 美樹子 看護教育委員会
静脈注射認定 看護師育成 筆記テスト 実技テスト 11名	平成26年11月12日(水) 13:30 ~ 17:00 平成26年11月12日(水) 17:15 ~ 18:45 平成26年12月10日(水) 17:15 ~ 18:45 平成27年1月21日(水) 8:30 ~ 17:00	【目的】 静脈注射に関する院内認定看護師の役割を理解し、 実践できる 【目標】 静脈注射に関する知識・技術の習得をする 静脈注射認定看護師としての役割を学ぶ	静脈注射院内 認定看護師 主任 福和 直美 薬剤師 平川 真吾 看護教育委員会
教育担当者育成 15名	平成27年1月26日(月) 8:30 ~ 17:00	【目的】 新採用者の教育に必要な知識・技術を習得する 【目標】 教育担当者の役割を理解し、行動できる	看護長 松林 輝代子 臨床心理士 丹生 篤 主任 藤野 崇 副看護部長 小瀬利 章子 看護教育委員会
チームリーダー 育成 28名	平成27年2月19日(木) 8:30 ~ 12:00	【目的】 チームリーダーの役割が理解できる 【目標】 1 固定チームナーシングにおけるチームリーダーの役割 がわかる 2 チーム目標立案のプロセスがわかる	 看護教育委員会
IV			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
感染管理1 19名	平成26年10月7日(火) 8:30 ~ 12:00	【目的】 感染予防対策を管理的視点から実施できる知識を習得する 感染予防対策を管理的視点から実施できる知識を習得する 【目標】 組織的な感染管理に取り組むために必要な知識を学ぶ 組織的な感染管理に取り組むために必要な知識を学ぶ	感染管理認定看護師 三五 裕子 感染症看護専門看護師 久光 由香 看護教育委員会

看護倫理4 46名	平成26年11月13日(木) 17:15 ~ 18:45	【目的】 臨床場面における看護上の倫理的問題に対して態度表明する力を養う 【目標】 1 倫理的行動を遂行することができる 2 その問題の解決に向けて何をしたらよいか判断し、実際に行動できる	副看護部長 小山 富美子 看護長 長尾 充子 主任 藤野 崇 主任 河野 政子 主任 村上 香織 久光 由香 看護教育委員会
感染管理2 11名	平成26年10月29日(水) 13:30 ~ 17:00	【目的】 感染予防対策を管理的視点から実施できる知識を習得する 感染予防対策を管理的視点から実施できる知識を習得する 【目標】 組織的な感染管理に取り組むために必要な知識を学ぶ 組織的な感染管理に取り組むために必要な知識を学ぶ	感染管理認定看護師 三五 裕子 感染症看護専門看護師 久光 由香 看護教育委員会
安全管理3 18名	平成26年11月19日(水) 8:30 ~ 12:00	【目的】 所属の安全に関する問題点の抽出と解決策を見出すことが出来る 【目標】 RCA分析を学び問題点の分析・改善策立案・評価が出来る	看護長 高野 桂三 看護教育委員会
全体看護職員対象			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
看護必要度 325名	平成26年6月12日(木) 17:15 ~ 18:15	【目的】 看護必要度の判断基準に基づいて正確に評価できる	看護長 薬師寺 優子 主任 元山 尚美
特別講演 180名	平成26年11月26日(水) 17:30 ~ 19:00	【目的】 近大職員として(仕事をする)という意識と価値を見出すことができる	近畿大学学長 塩崎 均 看護長 杉本 幸恵 看護長 長尾 充子
専門領域研修			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
がん看護初級 36名 35名	平成26年9月6日(土) 13:30 ~ 17:00 平成26年9月27日(土) 13:30 ~ 17:00	【目的】 がん看護における基本的な知識を習得し、患者・家族へのケアを検討できる 【目標】 1 がん看護における基本的な知識を習得する 2 症状マネジメントについて必要な基本的知識を習得し、患者・家族へのケアを検討できる 3 がん放射線療法について必要な基本的知識を習得し、患者・家族へのケアを検討できる 4 がん化学療法を安全・安楽に実施するための基本的知識と副作用(悪心・嘔吐)に対する看護を習得し、患者・家族へのケアを検討できる 5 がん性疼痛マネジメントの基本とその治療方法を習得し、患者・家族へのケアが検討できる	がん看護専門看護師 小山 富美子 長尾 充子 がん化学療法看護 認定看護師 愼 玉姫 林 真紀子 石山 さつき 緩和ケア認定看護師 森山 めぐみ がん性疼痛看護 認定看護師 竹久 志穂 看護教育委員会
エンド・オブ・ ライフケア 21名	平成26年10月18日(土) 9:00 ~ 17:00 平成26年11月8日(土) 9:00 ~ 17:00	【目的】 エンド・オブ・ライフ・ケアにある患者の特徴を知り、ケアにつなげる知識・技術を養う 【目標】 1 エンド・オブ・ライフ・ケアの基本を理解することができる 2 エンド・オブ・ライフ・ケアの患者の特徴を知ることができる 3 エンド・オブ・ライフ・ケアの患者のケアを理解することができる 4 エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護技術について理解することができる	がん看護専門看護師 小山 富美子 がん看護専門看護師 長尾 充子 緩和ケア認定看護師 森山 めぐみ がん性疼痛看護 認定看護師 竹久 志穂 看護教育委員会

家族への意思 決定支援 31名	平成26年6月20日(金) 13:00 ~ 17:00	【目的】 全領域に共通する意思決定支援の知識・技術を獲得する 意思決定が困難になる問題状況を知り、その解決に取り 組むことができる	家族支援専門看護師 藤野 崇 看護教育委員会
対応困難な家族 への関わり方 17名	平成26年9月25日(木) 13:00 ~ 17:00	【目的】 関わりの難しい家族との関わり方を基に、医療者・患者家族 双方がパートナーとしての関係を再確立するまでの知識・ 技術を獲得する	家族支援専門看護師 藤野 崇 看護教育委員会
退院支援 アセスメント 59名	平成26年11月6日(木) 13:00 ~ 17:00	【目的】 退院支援のアセスメントを強化し、自己課題を明確化する	在宅看護専門看護師 河野 政子 看護教育委員会
退院支援計画実践 9名	平成26年6月26日(木) 13:00 ~ 17:00	【目的】 退院支援のプロセスにおける具体的活動方法について学 び、自己課題を明確にする	在宅看護専門看護師 河野 政子 看護教育委員会
退院支援評価 7名	平成26年10月23日(木) 13:00 ~ 17:00	【目的】 1 退院支援の評価について学び、振り返りができる 2 退院支援・調整活動に関する諸制度や診療報酬について 理解を深める	在宅看護専門看護師 河野 政子 看護教育委員会
アドバンスド褥瘡 予防・治療ケア 16名	平成26年6月30日(月) 13:30 ~ 17:00	【目的】 褥瘡予防・治療ケアにおいて、リーダーシップを発揮し 自部署の褥瘡発生を予防する	皮膚排泄ケア 認定看護師 堂本 勝子
15名	平成26年7月28日(月) 13:30 ~ 17:00	【目標】 1 褥瘡に関する最新の知識・スキルが習得できる 2 アセスメント能力を高め、褥瘡予防・治療ケアが実践できる	看護教育委員会
14名	平成26年12月5日(金) 13:30 ~ 17:00	3 スタッフとのIPW(協働)や指導について、スキルアップできる	
災害看護研修 6名	平成26年11月7日(金) 13:30 ~ 17:00	【目的】 病院(自施設)が被災した時の対応ができる 【目標】 1 病院(自施設)が被災した時に限りある資源を利用し、 患者を安全に避難させることができる 2 近隣災害時に、多数傷病者の病院での受け入れや地域の 救護所での応援を行うことができる	救急看護認定看護師 西 有未 看護教育委員会
急変の前兆を見抜く 29名	平成26年10月2日(木) 13:30 ~ 17:00	【目的】 救急看護に必要な知識を習得する 【目標】 患者の急変を見抜き、迅速な対応につなげる事ができる	救急看護認定看護師 野見山 泰子 看護教育委員会
急変時の対応Ⅰ 16名	平成26年12月9日(火) 13:30 ~ 17:00	【目的】 患者急変時の対応を理解し、状況に応じた行動がとれる ようになる 【目標】 1 一次救命処置の知識を振り返り、不足部分を補うことができる 2 一次救命処置が実践できる 3 急変時に必要なこと(役割)を理解することができる 4 急変時に対する準備ができる	急性・重症患者看護 専門看護師 村上 香織 看護教育委員会
急変時の対応Ⅱ 13名	平成27年1月22日(木) 13:30 ~ 17:00	【目的】 患者急変時の二次救命処置の対応を理解し、状況に応じた 行動がとれるようになる 【目標】 1 二次救命処置のアルゴリズムを理解することができる 2 二次救命処置のスキルを実施できる 3 症例を通じて二次救命処置を理解することができる	急性・重症患者看護 専門看護師 村上 香織 看護教育委員会

管理者研修			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
主任昇格者研修 4名	平成26年5月9日(金) 8:30 ~ 17:00	【目的】 看護組織を理解し、役割を自覚する 【目標】 主任としての役割について学び、行動に繋げることができる	看護部長 担当副看護部長
人材育成 32名	平成26年10月4日(土) 13:30 ~ 16:00	【目標】 主任・リーダーと協働し、部署を運営する具体策を理解し行動に移すことができる	大阪厚生年金病院 看護部長 高橋 弘枝 担当副看護部長
看護倫理 68名	平成26年11月22日(土) 13:30 ~ 16:00	【目標】 看護管理者として倫理的問題の解決に向けた行動がとれる	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授 青山 ヒフミ 担当副看護部長
労務管理 72名	平成27年1月20日(火) 17:30 ~ 19:00	【目標】 労務管理上の問題解決へのアプローチを学ぶ	みらい労働法務事務所 特定社会保険労務士 谷口 史晃 担当副看護部長
看護補助者			
研修テーマ	研修日時		講師・担当者
診療補助者研修 110名	平成26年6月25日(水) 13:30 ~ 16:30 平成26年6月26日(木) 15:00 ~ 16:30 平成26年6月27日(金) 13:30 ~ 16:30	【目的】 本院職員としてあるべき姿を学び、患者対応など快適に患者が入院生活を送れる配慮ができる	看護補助者研修担当 看護長 杉本 幸恵 看護長 長尾 充子
自己啓発研修(BLS) 33名	平成26年7月3日(木) 17:15 ~ 18:45	【目的】 一次救命処置を学ぶ	救急看護認定看護師 野見山 泰子
フォーラム 105名	平成26年9月24日(水) 14:00 ~ 15:00 平成26年9月25日(木) 14:00 ~ 15:00 平成26年9月26日(金) 14:00 ~ 15:00	【目的】 近大病院で働くということ。診療補助員の疑問や業務についての問題を解決できる	看護補助者研修担当 看護長 杉本 幸恵 看護長 長尾 充子
フォロー研修② 10名	平成26年11月27日(木) 14:00 ~ 15:30	【目的】 搬送・保清に関する基礎を振り返る・学ぶことができる 【目標】 安全・安楽に患者の移送、清拭の援助ができる	看護補助者研修担当 看護長 杉本 幸恵 看護長 長尾 充子
診療補助者研修 108名	平成26年12月16日(火) 14:00 ~ 15:30 平成26年12月17日(水) 14:00 ~ 15:30 平成26年12月18日(木) 14:00 ~ 15:30	【目的】 安全・冬に多い感染について	看護補助者研修担当 看護長 杉本 幸恵 看護長 長尾 充子
病棟クランク・事務補助員研修 80名 79名	平成26年6月10日(火) 13:30 ~ 14:40 平成26年6月11日(水) 14:45 ~ 15:55 平成26年10月8日(水) 14:00 ~ 15:00 平成26年10月9日(木) 14:00 ~ 15:00	【目的】 本院職員としてあるべき姿を学び、患者対応など快適に患者が入院生活を送れる配慮ができる 【目的】 患者への説明・対応・外回りなどで安全・感染などの危険因子とその予防を知る	看護補助者研修担当 看護長 杉本 幸恵 看護長 長尾 充子

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 奥野 清隆
管理担当者氏名	病院事務部長 橋本 克己

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		患者支援センター 医療支援課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	職員課	
	高度の医療の提供の実績	医事課 医療支援課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学術支援課 総務広報課	
	高度の医療の研修の実績	総合医学教育研修センター	
	閲覧実績	医療安全対策課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課 患者支援センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
	第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 奥野清隆		
閲覧担当者氏名	附属病院事務部長 橋本克己		
閲覧の求めに応じる場所	病院棟 2 階相談室閲覧室		
閲覧の手続の概要 患者支援センターもしくは医療安全対策課にて関係部署と調整し対応している。			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 総則 2. 安全管理委員会 3. 安全管理部 4. リスクマネジャー 5. 報告等にもとづく医療に係る安全確保を目的とした改善方策 6. 安全管理のためのマニュアル整備 7. 医療安全管理のための研修 8. 事故発生時の対応 9. 患者相談窓口 10. その他	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 26 回
・ 活動の主な内容： 1. 安全管理部の報告を受け、医療安全管理の検討及び研究に関すること 2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直しに関すること 3. 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること 4. 医療安全管理のために行う病院長等に対する提言に関すること 5. 医療安全管理のための啓発、教育、広報及び出版に関すること 6. 医療訴訟に関すること 7. その他医療安全に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 39 回
・ 研修の主な内容： 1. これだけは知ってほしい！！みんなの前向き医療安全 2. 中心静脈穿刺手技講習会 3. 医療事故とヒューマンエラー 4. 謝罪とコミュニケーション 5. 医療ガス・フィットフィックス 6. 卒前教育と卒後研修で共有する患者安全教育の原理と実践法 7. 訴訟に強い記録の書き方～基礎編～ 8. 大事故災害への医療対応 9. データから考える！ポジティブインシデント・アクシデント 10. 近畿大学における抗凝固・抗血栓薬院内使用ガイドについて 11. 薬剤部・褥瘡対策室 12. 中央放射線部・個人情報対策室 13. 安全管理DVD研修	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジャー会議等を通じて全職員へ周知するとともに、院内LANに掲載し周知を図り、改善策の徹底を図っている。また、安全管理研修参加状況の個人識別化を実施している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (11) 名 ・ 活動の主な内容： 1. 定期的に医療安全対策室会議を開催し、必要事項を管理委員会に勧告する 2. 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査 3. 定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検 4. マニュアルの作成及び点検並びに見直しの提言等 5. アクシデント・インシデントレポートの収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価 6. 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知 7. 医療安全に関する職員への啓発、広報 8. 医療安全に関する職員研修の企画、立案、運営	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 近畿大学医学部附属病院の院内感染防止対策に関する基本的考え方 2. 院内感染防止対策の組織の概要 3. 感染防止対策に関する職員研修 4. 院内感染症アウトブレイク時の対応 5. 感染症情報の院内への提供と広報 6. 患者等への情報提供と説明 7. 地域連携 8. 院外への情報公開 9. その他の院内感染防止対策 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染防止対策に関する重要事項の決定を行う 2. 院内感染防止対策指針およびマニュアルを検討し承認・周知する 3. 院内感染防止対策に関する情報を共有し職員へ周知する 4. 院内感染防止に関する職員研修計画を検討し周知する 5. 院内感染事例等の原因究明結果を報告し、対策を職員に承認・周知する 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年14回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>新規採用時の研修では感染対策の基礎について、定期研修においては針刺し等汚染事故発生状況、結核、インフルエンザなどの研修会開催時期に合わせた季節の感染症対策、および外部から招聘した感染対策の専門家による講演会を実施した。</p> <p>また、一部の研修会は掃除業者やリネン業者にも理解しやすい内容として開催した。全職員が興味を持てる内容とするため、研修会講師はICTチームの医師、看護師、薬剤師、臨床技師が担当をした。</p> 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>定期、および臨時のICTラウンド、ICTニュース、院内感染防止対策委員会、各ICTメンバーの参加している委員会、研修などを通じ、院内感染発症防止、院内感染対策の情報を発信して、啓発を繰り返している。</p> 	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 19回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>H26. 4月～5月 特別な管理を要する薬品の取扱いについて（新人看護職員研修）</p> <p>H26. 5月14日 救命当直に備えて</p> <p>H26. 5月22日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H26. 5月26日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H26. 6月24日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H26. 7月9日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H26. 9月10日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H26. 10月29日, 10月30日 医師対象ミキシングルーム運用説明会</p> <p>H26. 12月1日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H26. 12月12日 NICUクリーンベンチ取扱い講習会</p> <p>H26. 12月17日, 12月19日 アブラキサンの投与に際する注意（65N S 看護師研修）</p> <p>H26. 12月18日 薬剤部新薬勉強会</p> <p>H27. 1月21日 平成26年度第15回安全管理研修 持参薬確認について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (☑・無)</p> <p>・ 業務の主な内容： 医薬品の採用・購入、医薬品の管理方法、投薬指示・調剤、患者への与薬や服薬指導、 医薬品の安全に係る情報の取り扱い（収集、提供）、各部門における薬剤の取り扱い （手術・麻酔、救急・集中治療室、血液透析関連、画像診断、内視鏡、臨床検査、 歯科領域、輸血）、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 情報の収集と周知方法 インターネット等を利用し、医薬品医療機器総合機構や日本医療評価機構、およびその他の 医薬品関連サイトから情報を収集する。また、院内の医薬品の副作用情報については、全診 療科の薬事委員（医師）を通じて定期的にその有無と詳細の確認をしている。 電子カルテのメール機能を利用し、全医師・全看護師に情報配信すると同様に学内薬剤情報 サイトに掲載する。更に各種委員会を通じて情報提供を行っている。</p> <p>改善のための方策 施設内外を問わず、医薬品に関するインシデント・アクシデントの重大事例が発生した際は 安全管理部門と連携し、状況を確認し、問題点については改善してゆく。医薬品の安全使用 のための研修を通じ院内に啓蒙している。</p>	

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年158回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 特定7品目・ 新規導入機器研修・ デモ機 等	
② 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 特定7品目・ 輸液・シリンジポンプ・ 心電図・ 体外式ペースメーカー 等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDA情報および厚生労働省通知 等 トラブル事例等を啓示し、注意喚起とともに啓蒙活動を行っている	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>日本医療機能評価機構 2015年1月5日認定 認定3回目 初回認定2004年6月21日</p> <p>認定番号 第JC221-3号</p> <p>主たる機能：一般病院 2</p> <p>機能種別版評価項目 3rdG : Ver. 1.0 認定機関 2014年6月21日～2019年6月20日</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・他の医療機関向けに発送、ホームページ掲載 「診療のご案内」(特集疾患、診療内容、トピックス、専門医などの紹介)の発送・地域の住民患者向けに 「きずな(2回/年)」発行、ホームページ掲載、公開講座の開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ul style="list-style-type: none">・担当科へ対診依頼・緩和ケアチーム等が主科と連携して診療・救急災害センターにてER医が初期対応を行った後に、専門診療科等へ後送	